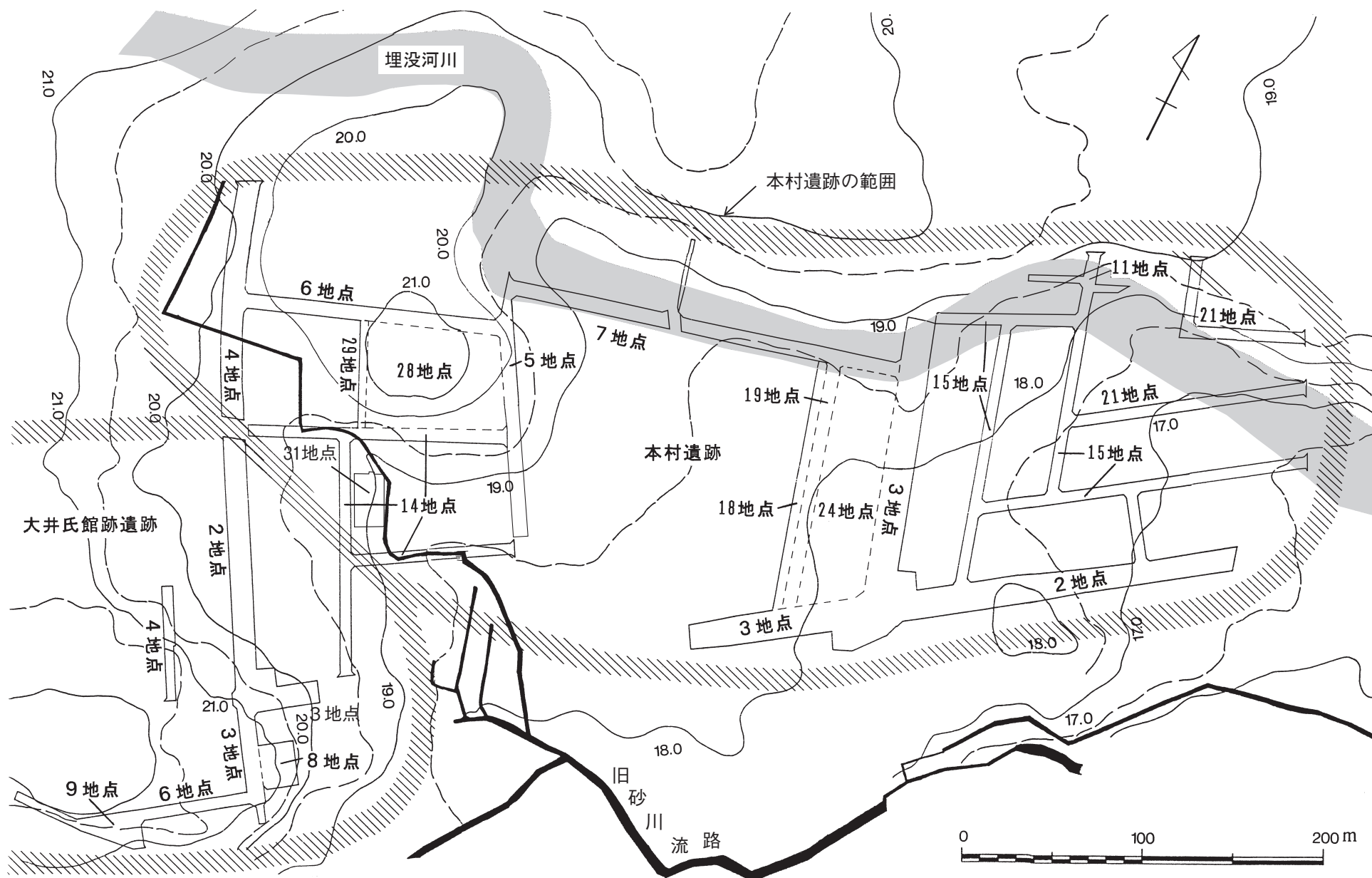




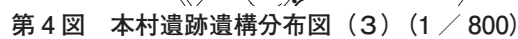
本村遺跡第2地点 1号土坑（縄文時代）



本村遺跡第3地点 土坑 33



第1図 本村遺跡・大井氏館跡遺跡の範囲と調査地点 (1 / 3000)





第5図 本村遺跡遺構分布図(4) (1/500)

第2章 岩宿時代

6節 層序

砂川が開析した谷にあたる左岸に位置する本村遺跡周辺は、黒色土が厚く、逆にローム層が立川面である。遺跡の土層断面の層序を把握し標準層位を設定することは、発掘調査において欠かせない基本的条件のひとつである。特に遺物の出土層位や遺構の掘り込み面、切り合い関係を検討する際には、特に標準層位との関係において重要といえる。遺跡地は西が高く、東に向かって低くなっており、その比高差は約3mである。

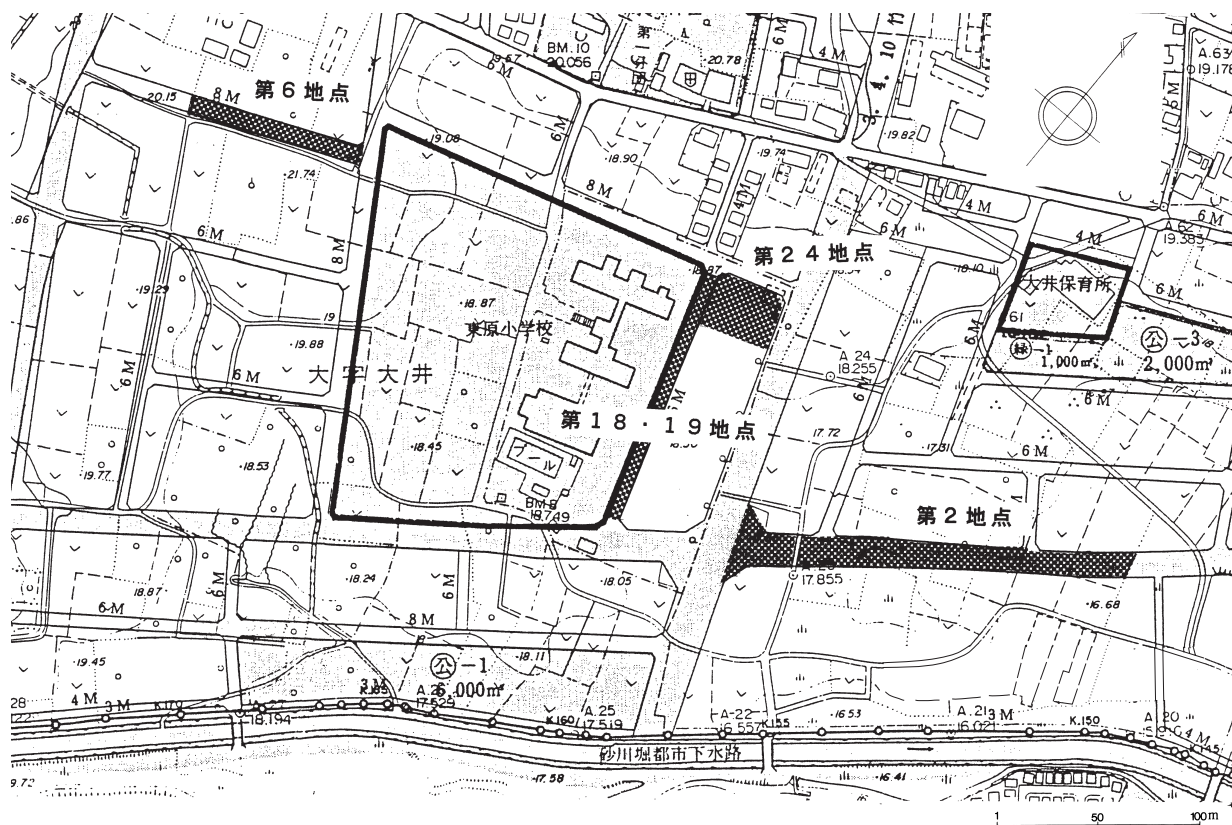
本遺跡は低位台地、旧河川跡、低地と多様な範囲に広がるため、それぞれの地区において基本土層の厚みが異なるところが特に顕著に見られる。よって、標準層位との対比が困難なため、遺物・遺構の属する時代・時期を判断するには、そのまま出土及び出土層位を時間軸として扱うわけにはいかない。

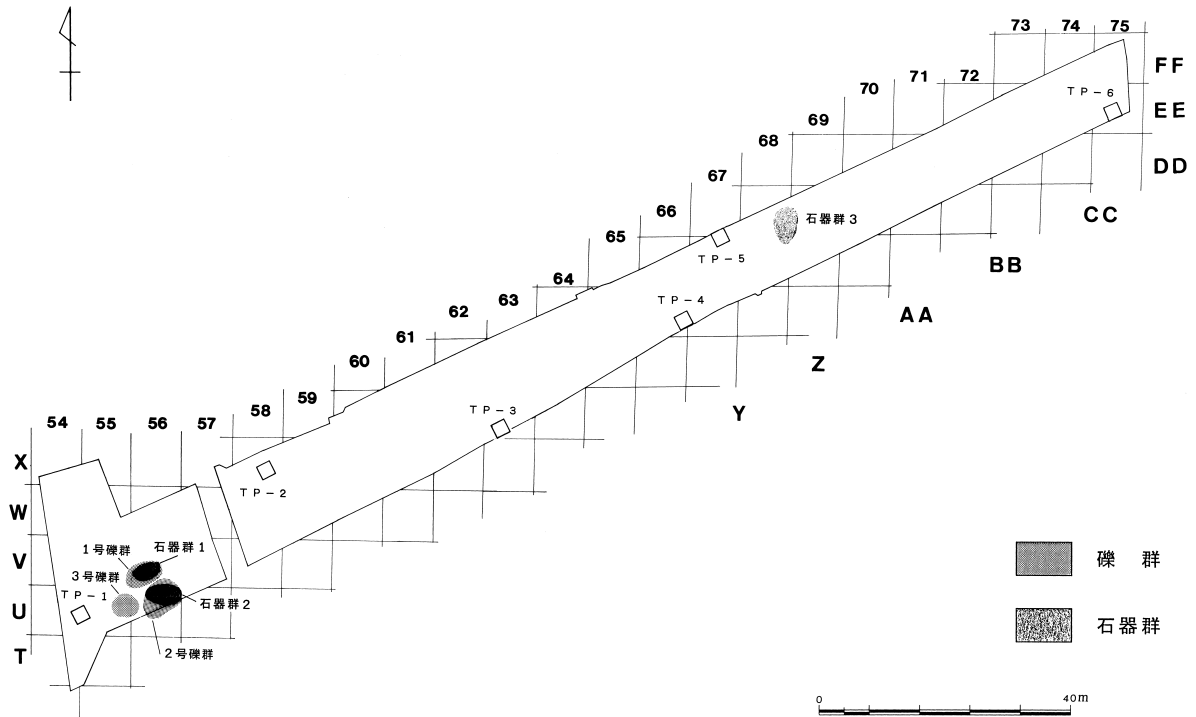
(1) 本村遺跡（旧弁天後遺跡）第2地点（第10図）

6ヶ所でテストピットを開けた。ここは遺跡全体の南東部で低地にあたり、層序はその地点によって異なっている。特にその堆積土層の発達過程は実に様々で、低位台地故に武蔵野台地の標準的ローム層区分に必ずしも対応できない。

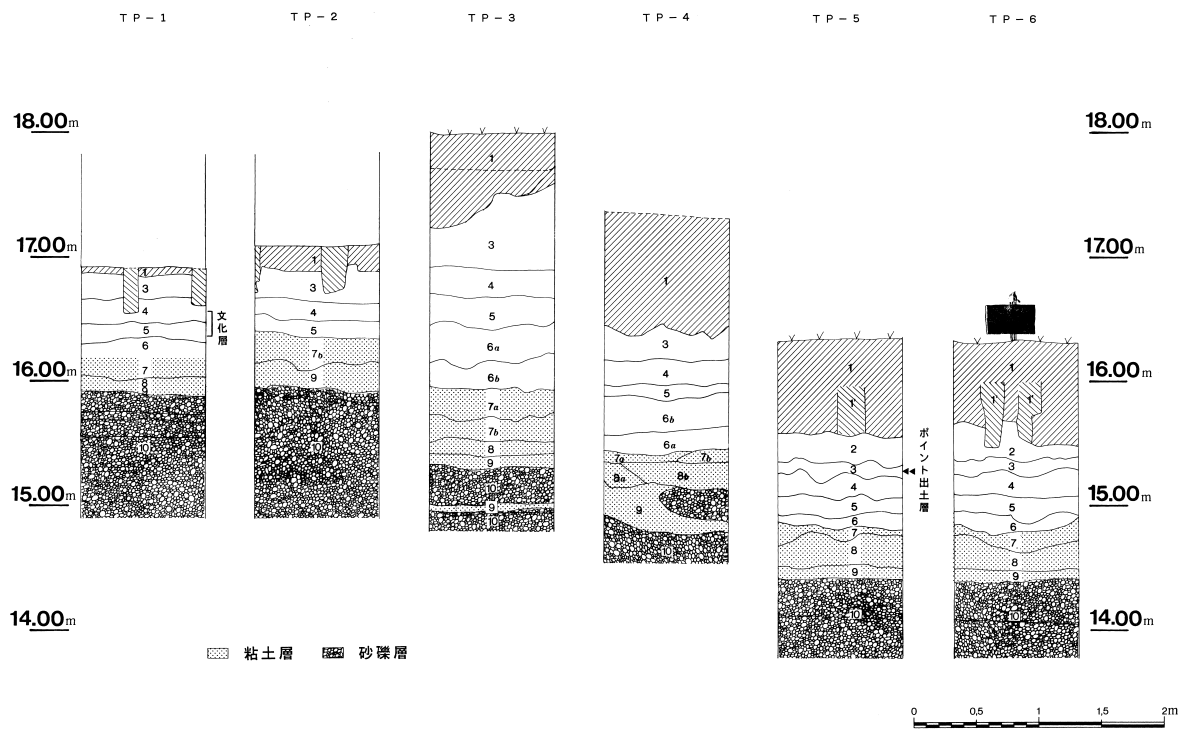
テストピットとして開けた6ヶ所の層序は第11図に示したとおりである。各ピットによって若干相違しているところもあるが、基本土層断面は次のとおりである。

- 1層 表土。黒褐色を呈し、比較的軟質である。
- 1a層 深耕による耕作痕。パサパサしている。
- 2層 黒褐色土層。非常にしまりの強い層。下部にはロームも混在する。
- 3層 明黄褐色土層。ロームと黒褐色土の混土層。第22図21・22のポイントは本層上部より出土。
- 4層 橙褐色ローム層。色調が比較的明るいローム層で粘性をもち、白色粒子が含まれる。

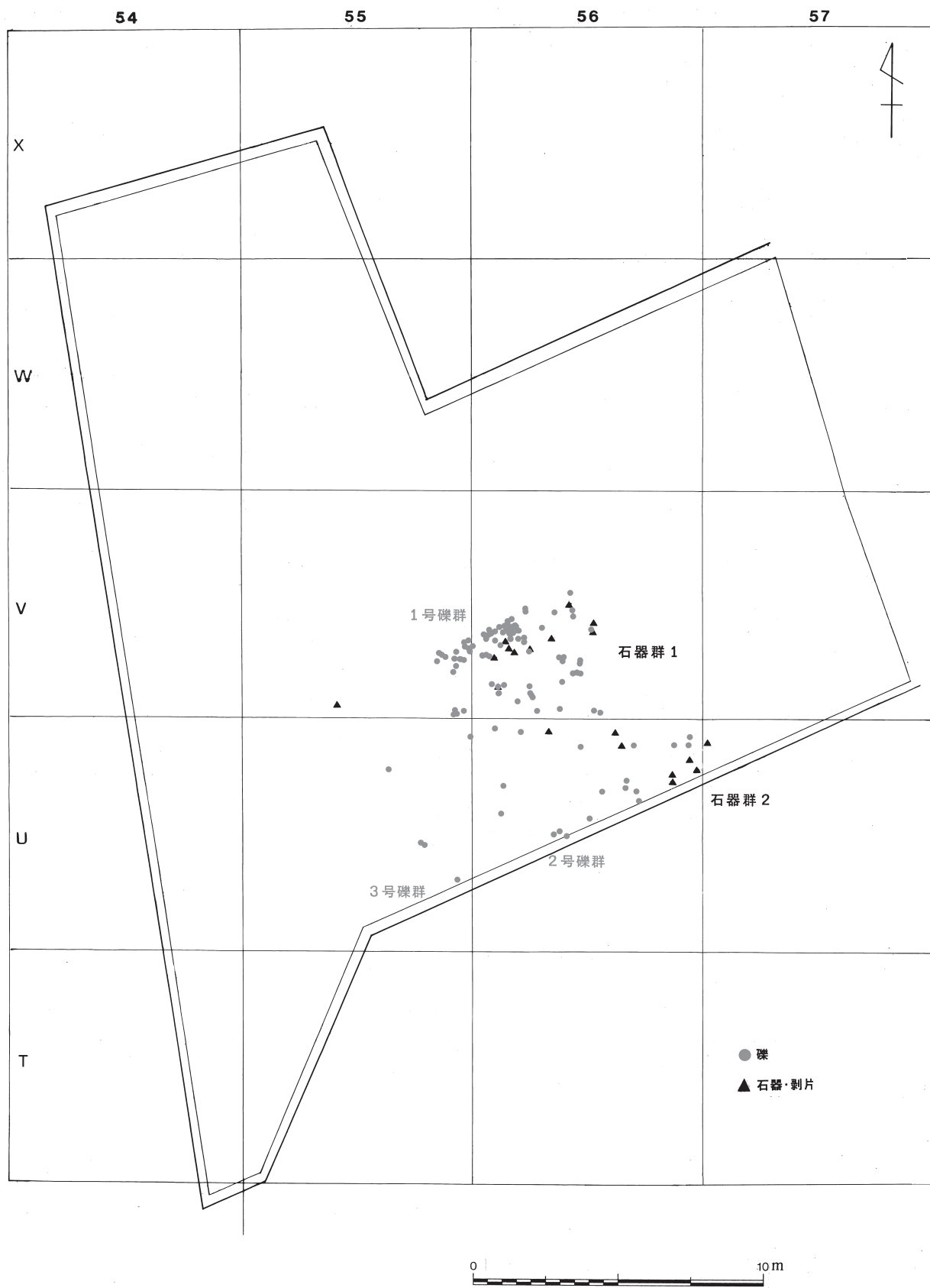




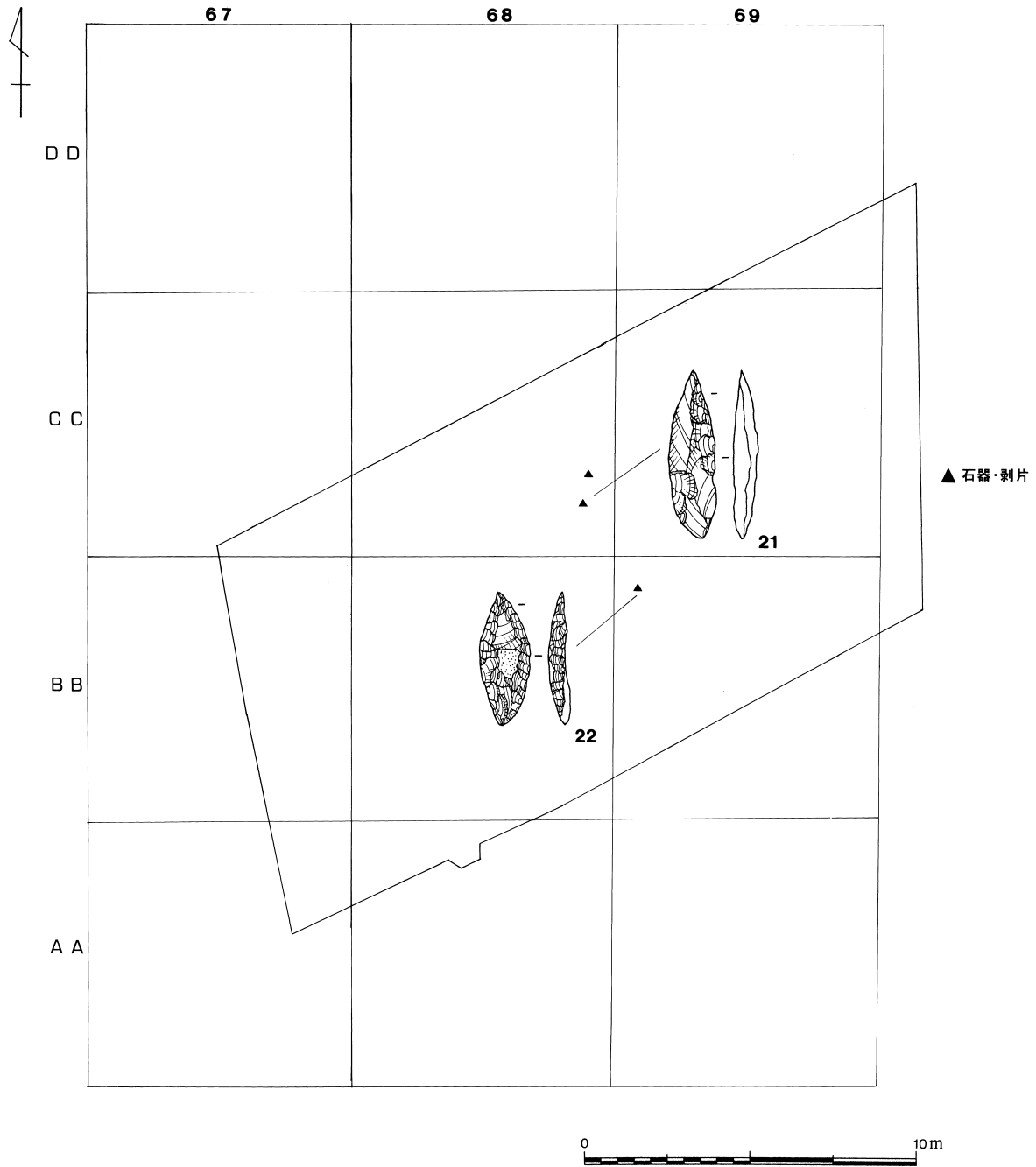
第10図 本村遺跡第2地点石器群・礫群分布図 (1/1200)



第11図 本村遺跡第2地点土層柱状図 (1 / 60)

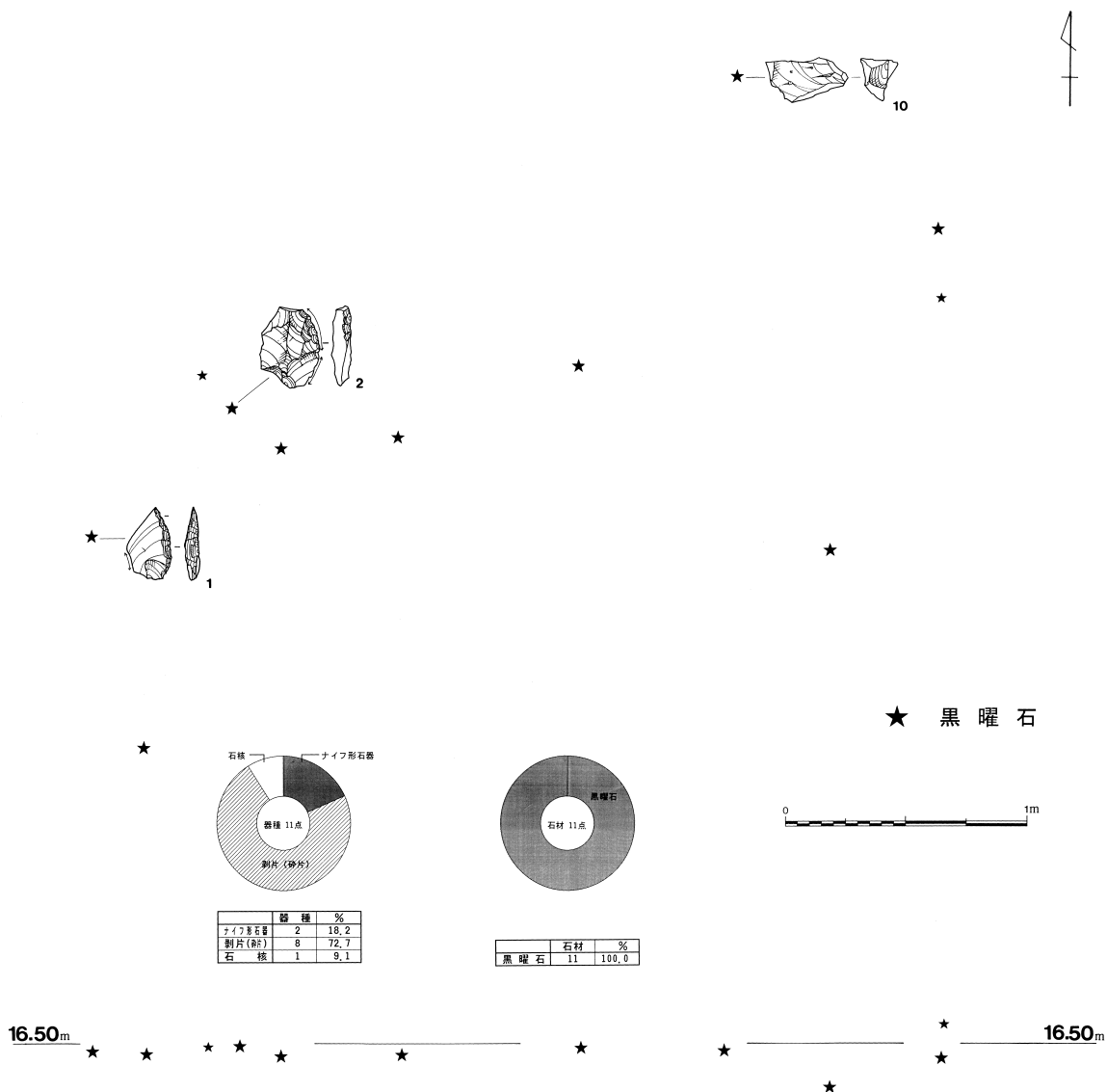


第12図 本村遺跡第2地点石器群1・2、1～3号礫群分布図 (1 / 200)



第13図 本村遺跡第2地点石器群3 (1 / 200)

- 礫群・石器は本層からの出土。
- 5層 明橙褐色ローム層。4層より色調はさらに明るい。
- 6a層 明淡黄褐色ローム層。粘性にとみべたつく。下部の粘土層の漸移層。
- 6b層 黄茶褐色ローム層。6a層よりさらにべたつく。
- 7a層 白色粘土層。粘性がさらに増す。地点によっては酸化鉄分が認められる。
- 7b層 7a層より粘性にとむ。ローム層との混土層。
- 8a層 灰白色粘土層。地点によっては色調が青灰褐色や黄灰褐色を呈する。
- 8b層 8a層より粘性にとむ。ローム層との混土層。
- 9層 灰褐色粘土層。
- 10層 茶褐色砂礫層。礫の大きさは最大でも3～4cmで、1～2cmが大半。
- (2) 本村遺跡(旧東原遺跡)第6地点(第16図)
- 遺跡の北西部に位置し、遺跡内でももっとも標高が高い。一般に武蔵野台地における立川ローム層以上の標準層位は、I～XI層に区分され、それ以深を武蔵野ローム層とされている場合が多い。6地点では台地



第 14 図 本村遺跡第 2 地点石器群 1 石材別分布図 (1 / 30)

平坦部での立川ローム層が観察できた。

Ⅲ層：いわゆるソフトローム層である。暗黄褐色軟質ローム層。

Ⅳ層以深がハードローム。

Ⅳ層：黄褐色硬質ローム層で、この層以下、硬質化する。

Ⅴ層：暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅰ黒色帯にあたる。本層下部より粘土化が著しくなる。

Ⅵ層：黄褐色ローム層。いわゆる A T (始良丹沢パミス) に対比される層で、BC21,000 年前。

Ⅶ層：暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅱ黒色帯上部にあたる。

Ⅸ層：暗褐色ローム層。立川ローム層第Ⅱ黒色帯下部にあたる。Ⅴ・Ⅶ層と共に埋没腐植土といわれる。黒色帯 (ブラックバンド) として層序対比

に役立っている。町内最古の遺物は本層上部より出土している。

X層：明褐色ローム層。埼玉県内で最古の遺跡はこの層からの出土である。

XI層：黄白色ローム層。立川ローム層下部に相当する。

(3) 本村遺跡第 19・24 地点 (第 45 図)

遺跡のほぼ中央に位置し、埋没河川 2 ヶ所と低位台地の土層の観察をおこなった。埋没河川の河床面までの深度は約 220 cm で、埋土は 8 層に分層できる。かたく締めり粘性が強い。土説は第 45 図に記載した。発掘調査が終了するころまではテストピットの埋没土内にはスギナがびっしりと繁茂していた。

本村遺跡は 1987 年 9 月に調査を開始するまでは、

あたり一面に広々とした畑がひろがる土地で、縄文時代を主体とする遺跡とは異なり表面採集できる遺物も皆無に近かった。えてして、岩宿時代調査のきっかけは深耕等による攪乱によって礫群の一部が地表面に露出する状態であったりするが、本遺跡の場合は違った。

せいぜい平坦な地形の中でわずかな起伏や埋没谷を地形図で探したりする程度だけで、調査にあたっては皆目予測がつかなかったというのが率直な思いであった。岩宿時代の調査は、中世の遺構・遺物の分布の少ない区域で、2×2mの正方形の試掘坑を設定し、深さ1mを目安に試掘を実施した。また、遺構の壁面から赤化した礫群の出土によって確認したケースもある。

本書で報告する岩宿時代の遺構は、石器集中と呼ぶほどの出土点数でもなく、かつ調査区域も道路築造に伴うというごく狭い限られた面積であるので、本書では石器が複数以上出土した遺構を石器群と呼ぶ。ちょうど礫のまとまりを礫群と呼ぶのと同様の意である。

本村遺跡からはこの石器群が5箇所、礫群7箇所である。

7 節 石 器 群

5箇所の石器群は大きく2箇所に分布している。遺跡の南側の砂川に沿うように分布するグループaと北側を画す埋没河川に沿うグループbに分けられる。

石器群1～3特に1・2は近接しており、これをグループa。埋没河川の舌状に張り出した部分で石器群4・5が位置し、これをグループb。また、それぞれのグループは、礫群の分布と重複している。石器群3を除く石器群・礫群は、いずれもハードローム層中で確認された。石器群3が武蔵野台地Ⅲ層、他は武蔵野台地Ⅳ上層に属する。以下、各石器群について述べる。石器群1と2は2ブロックに分けて報告するが厳密に分離したものではない。同一の可能性があるが、散漫な拡がりの中でもまとまりがみられるものを便宜的に分けた。

1)、石器群1

出土状態（第12・14図）グループaに属す。

V-56グリッドで低地部に位置する。東西4.5m、南北1.5mの帯状に比較的まとまって11点の石器が

第7表 石器群器種組成表

	尖頭器	ナイフ	削器	台石	石核	剥片	碎片	合計
石器群1		2			1	7	1	11
石器群2		1	1		1	5	1	9
石器群3	2					1		3
石器群4				1		18	1	20
石器群5		1				13		14
合 計	2	4	1	1	2	44	3	57

第8表 石器群石材組成表

	黒曜石	チャート	頁岩	ホルンフェルス	凝灰岩	砂岩	合 計
石器群1	11						11
石器群2	7	1				1	9
石器群3	1	2					3
石器群4	1	2	13	2	1	1	20
石器群5	11		1		2		14
合 計	31	5	14	2	3	2	57

出土した。確認した標高は、16.43～16.58mである。出土した層は第4層の粘性の強い橙褐色ローム中である。器種は、ナイフ形石器2点、石核1点、剥片7点、碎片1点。石材はすべて黒曜石である。

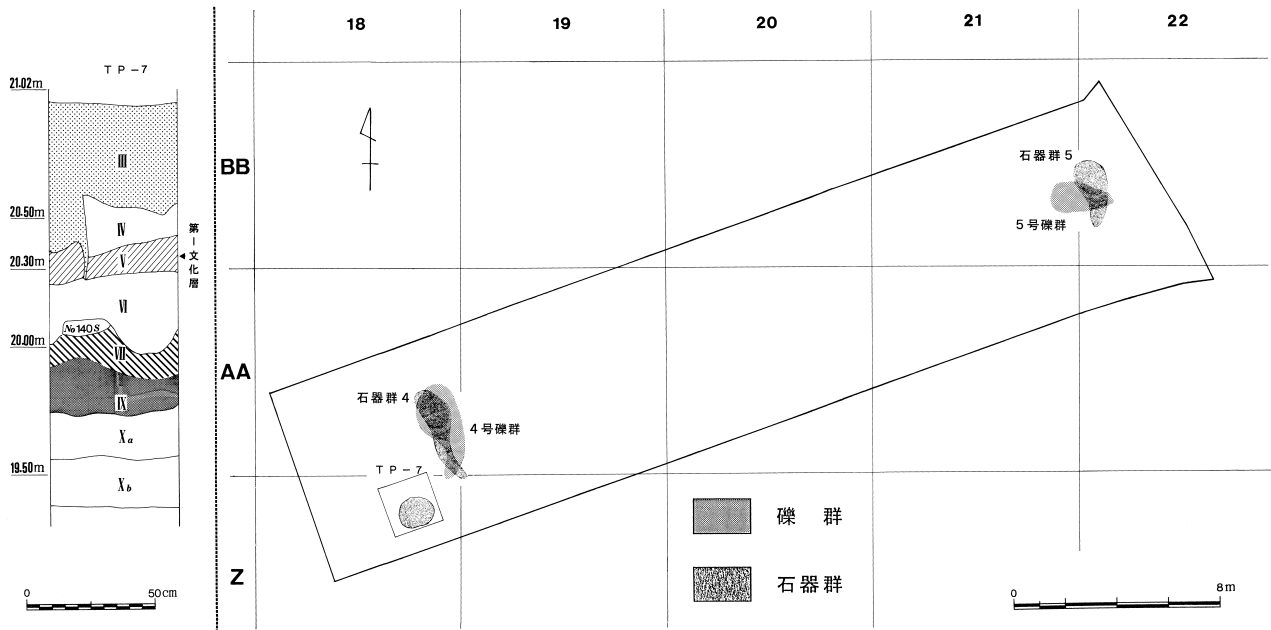
2)、石器群2

出土状態（第12・15図）グループaに属す。

U-56グリッドに位置する。南北2m、東西6mの範囲に散漫に9点が出土した。標高は16.39～16.46mで出土層位は石器群1と同じである。器種はナイフ形石器1点、抉入石器1点、石核1点、剥片5点、碎片1点で石材は安山岩の石核以外は黒曜石である。

これらの一群より5m西側からチャートの剥片1点が出土している。区域外で石器群2よりさらに南側については調査されていないが、一群が延長されているものと想定されよう。

グループaとして見た場合、遺物総数は20点と少ない。器種の内訳はナイフ形石器3点、石核2点、剥片12点、碎片2点で点数の割にナイフ形石器が多いが、ほとんどが破損品である。石器石材は、黒曜石が全体の95%を占め、後は安山岩とチャート1点ずつである。遺物の垂直分布は、低地部でも平坦地からの出土のためほぼ均一である。



第16図 本村遺跡第6地点石器群礫群分布図 (1 / 300)・層序 (1 / 30)

3)、石器群3

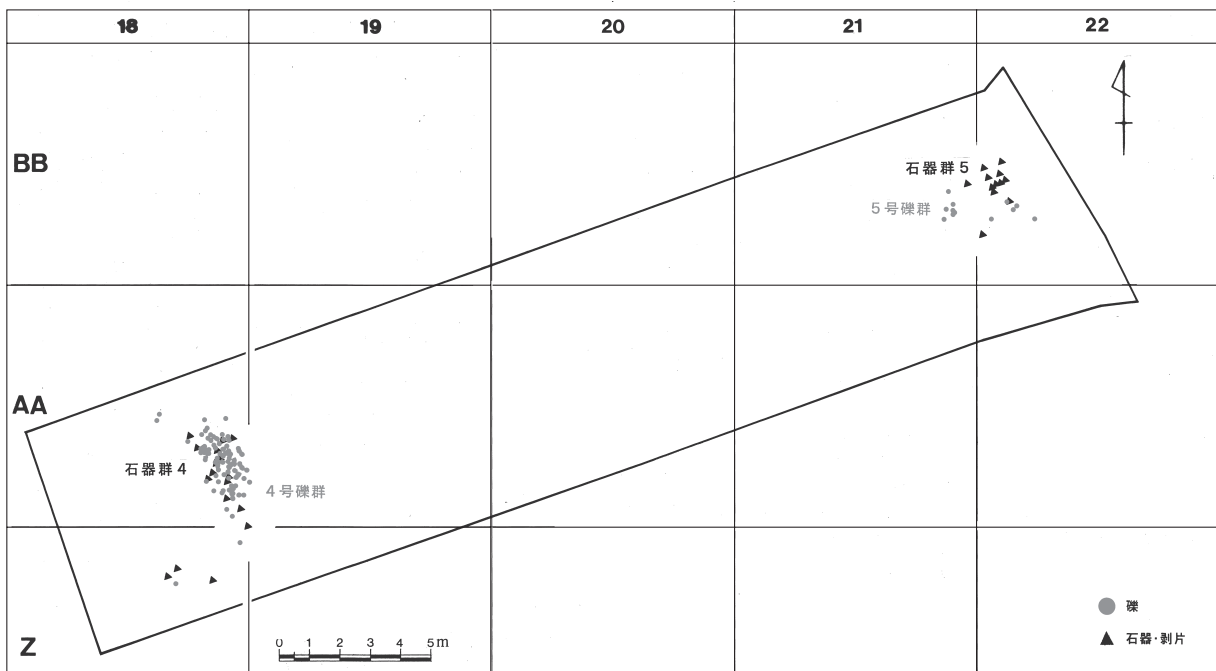
出土状態(第13図)

BB - 69・CC - 68グリッドに位置する。グループaから北東に約110m離れている。遺物の分布は4mの帯状の範囲内に三点が出土したのみである。内容も尖頭器2点、剥片1点である。石材はチャート2点と黒曜石である。標高15.34～15.36mで出土層位は第3層で、ローム層と黒褐色土の混土層の上層からである。縄文時代草創期の可能性もある。

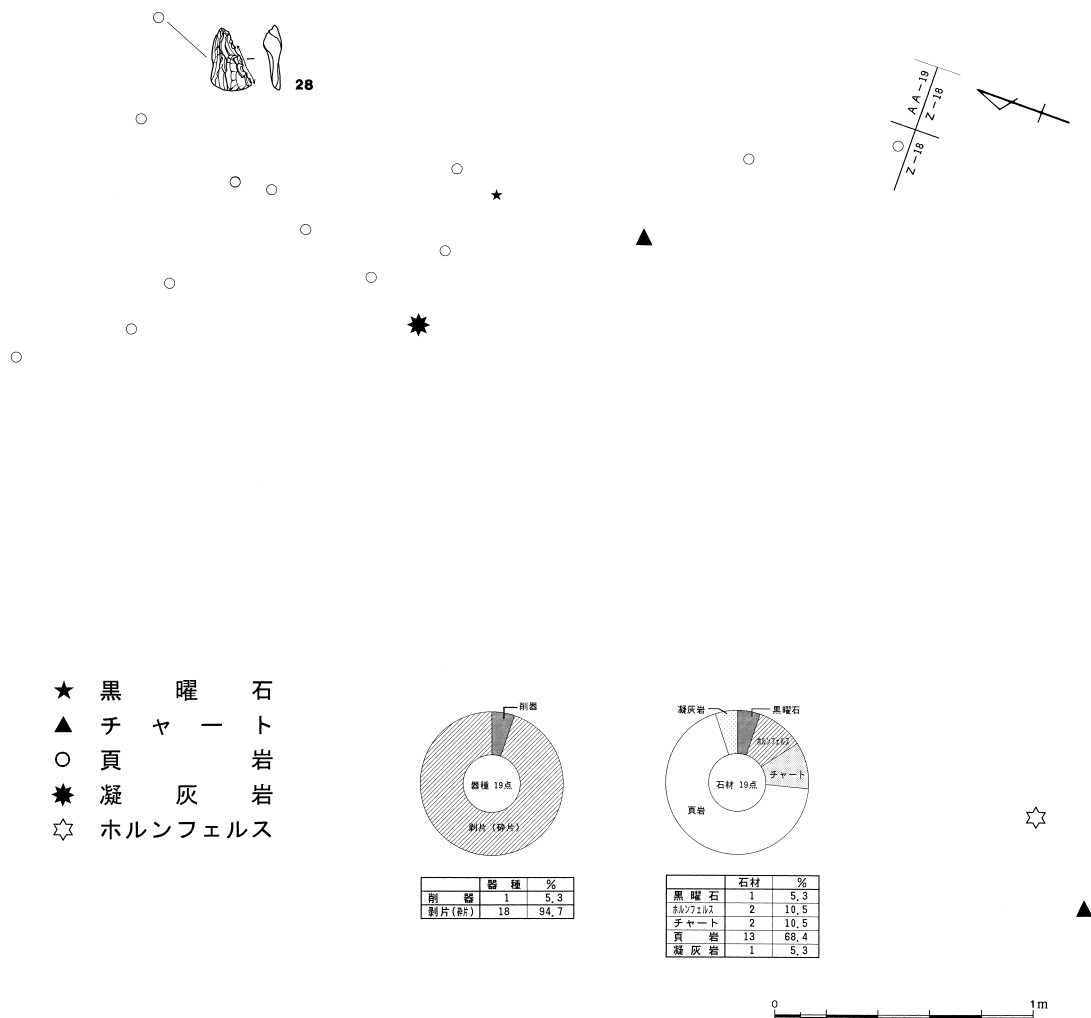
4)、石器群4

出土状態(第17図) グループbに属す。

Z・AA - 18グリッドに位置する。遺物の分布は南北5m、東西2.5mの範囲で、上に一つのまとまりが見られるが、散漫である。出土総数は20点で、その内訳は、台石1点、剥片18点、碎片1点と貧弱である。石材は、頁岩13点、チャート2点、ホルンフェルス2点、黒曜石と凝灰岩・砂岩が各1点ずつである。標高は20.40～20.57mで出土層位は第IV上層であるが、39のみ第VI層からの出土である。



第17図 本村遺跡第6地点石器群4・5、4・5号礫群分布図 (1 / 250)



第18図 本村遺跡第6地点石器群4 石材別分布図 (1 / 30)

5)、石器群5

出土状態 (第17図) グループbに属す。

BB - 22 グリッドに位置する。石器群4とは北東方向に2.7 m離れている。南北2.5 m、東西1.5 mの小範囲の中に13点出土した。器種はナイフ形石器1点、台形様石器1点、剥片3点、碎片8点である。石材は剥片・碎片の11点は黒曜石で、頁岩1点、凝灰岩1点である。標高は19.64 ~ 19.86 mで第IV上層に位置する。

グループbとして見た場合、遺物総数は32点である。器種の内訳は削器1点、台形様石器1点、剥片20点、碎片9点で、大半が剥・碎片である。石器石材は、頁岩の43%、黒曜石の37%で全体の8割をこえ、他にチャート、ホルンフェルス、凝灰岩が各2点である。石器群4は主に頁岩、石器群5は主に黒曜石で構成されている。遺物の垂直分布は、地形にあわせて全

体に西側から東側に緩やかに谷に向かって傾斜している。現地表面での比高差で約0.5 mに対して石器群4の出土標高は20.4 ~ 20.5 m代、石器群5の出土標高は19.6 ~ 19.7 m代でその差0.8 mである。

(坪田幹男)

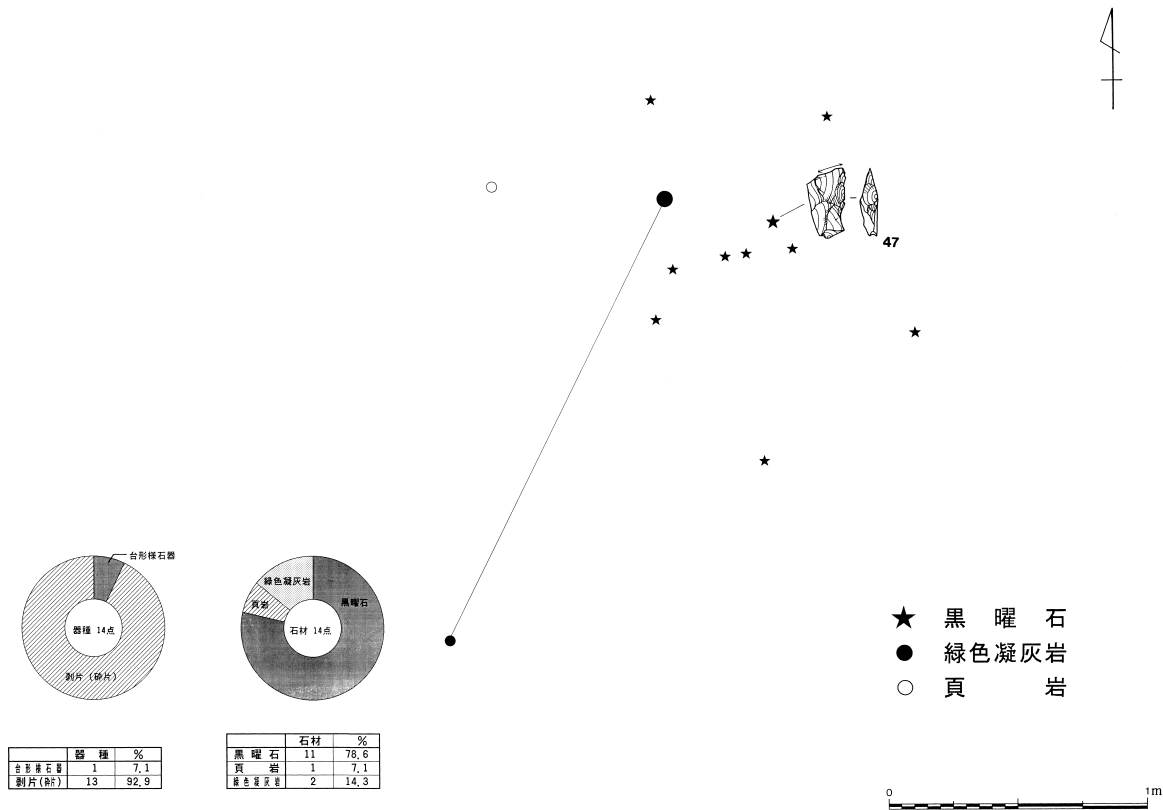
8節 出土石器

本村遺跡2地点

石器群1 (第20図)

1. ナイフ形石器

縦長の不定形剥片を素材とする片縁調整のナイフ形石器。石材は気泡の入る半透明の黒曜石。打面は調整が多く残る。打点は割れ円錐で中央に位置する。整形は右側縁に行なっている。先端部付近で深く、基部に向かうにつれ浅い急斜度調整で歯潰しがなされている。基部付近に調整はなく、石核調整により生じた剥離が見られる。左側縁下部には連続する微細な剥離が



第 19 図 本村遺跡第 6 地点石器群 5 石材別分布図 (1 / 30)

見られる。

2. 搔器・削器

縦長の不定形剥片を素材とするいわゆるサイドスクレーパー。石材は気泡の多い半透明の黒曜石。打面は平坦、打点は中央に位置する。下部は裏面右隅に力が加わり欠損している。整形は右側縁の一部にのみ行われている。大きな急斜度調整を 4 回行い刃部を形成している。最大傾斜度は 63 度で、刃部には細かい剥離も見られる。加工の状況からみてナイフ形石器の未製品とも考えられる。

3～9. 剥片

すんずまりの縦長剥片が主体となる。石材はすべて気泡の多い半透明の黒曜石。4・5 には一部、側縁に微細な剥離が見られる。6 の右側縁に見られる剥離は二次加工ではなく、先行する剥離または石核調整の段階で行われた剥離の面である。

10. 石核

石材は気泡の多い半透明の黒曜石。作業面は 2 面見られる。まず図面の上面を打面とし裏面左隅から剥離を行っている。石器の下部が切断されている。切断面には割れ円錐が残っている。次に表面を打面とし、裏

面右隅に最後の剥離が行われている。

11. 碎片

石材は気泡の多い半透明の黒曜石。

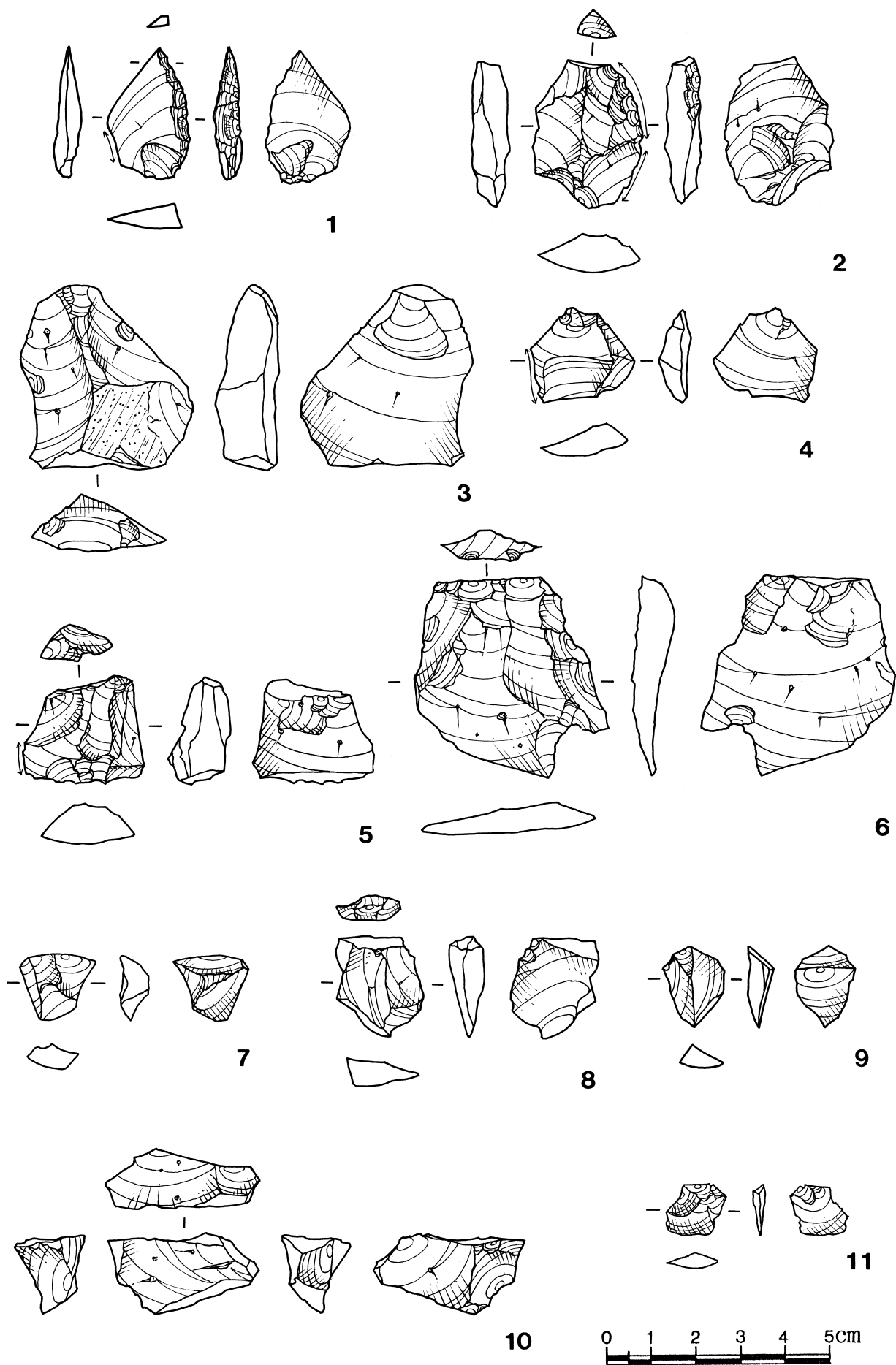
石器群 2 (第 21 図)

12. ナイフ形石器

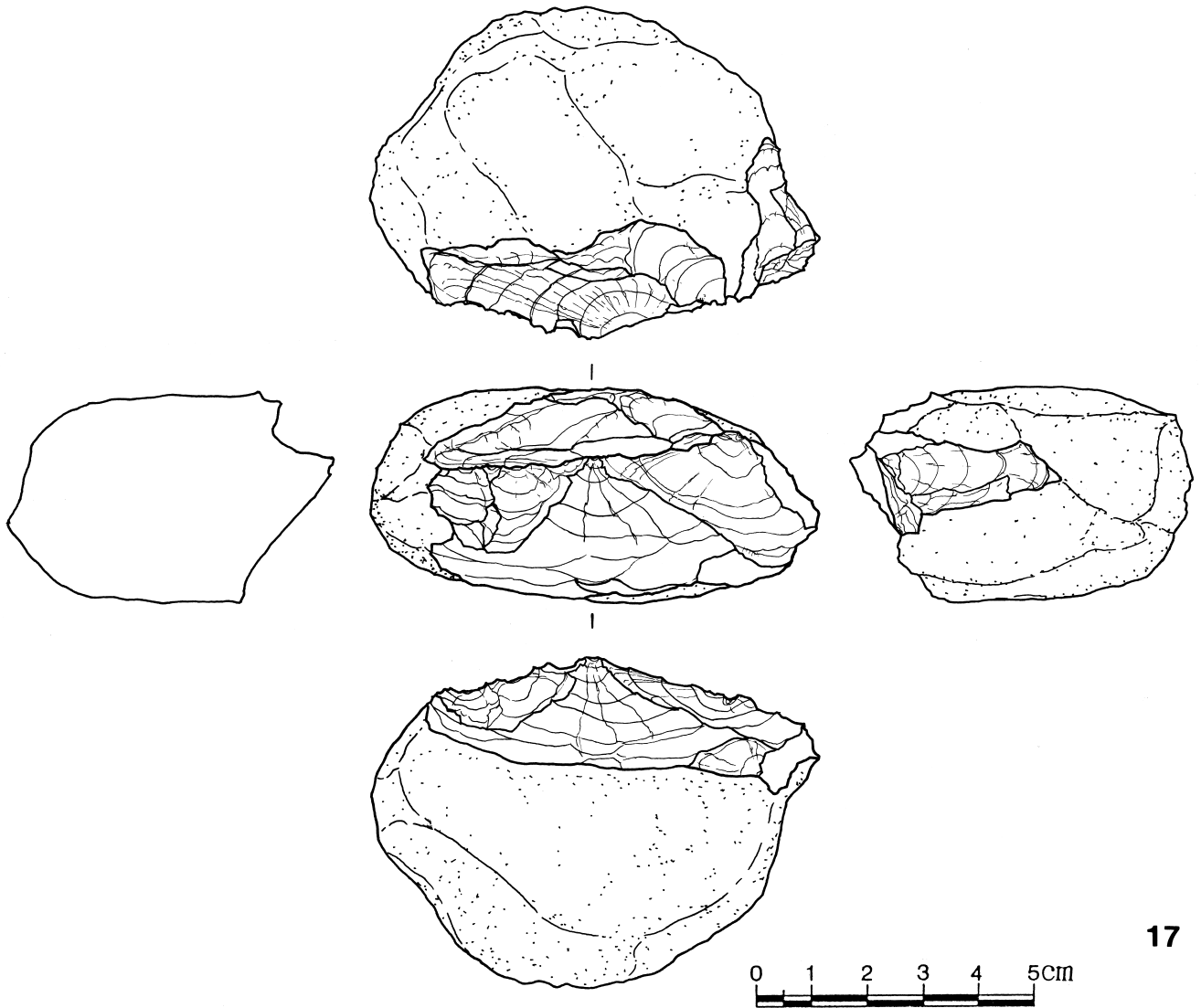
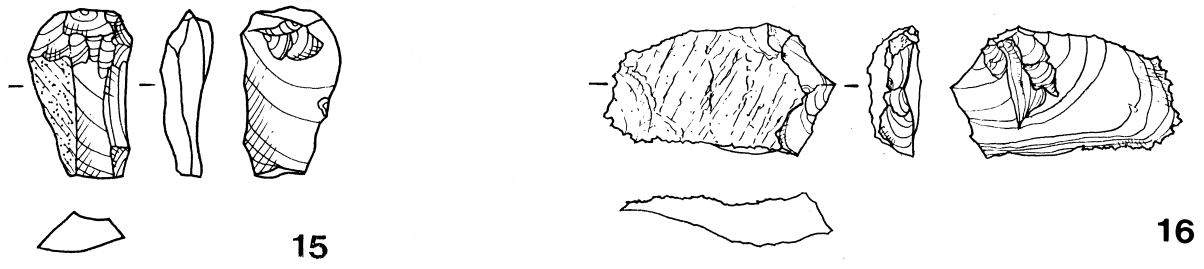
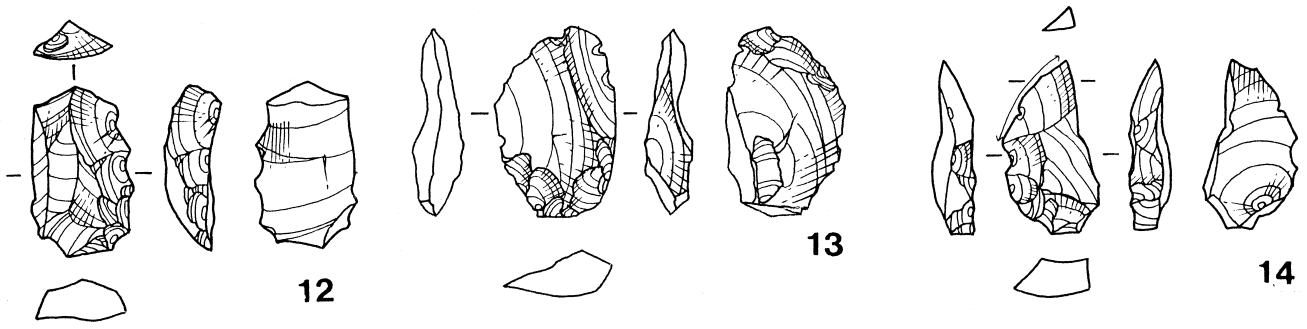
厚手の縦長剥片を素材とする片縁調整のナイフ形石器。石材は不純物が多い半透明な黒曜石。打点・打面は器の先端部に位置するが、欠損のため残っていない。整形は右側縁に行なっている。大きな急斜度調整によって鋸歯状に仕上げている。先端部は整形面に力が加わり欠損している。断面形や加工の状況から角錐状石器とも考えられるが、いずれにしても未製品と思われる。

13～14. 二次加工のある剥片

13. 縦長の不定形剥片を素材とする。石材は気泡の多い半透明の黒曜石。加工は基部に 1 回、平行調整を行っている。その他表面に見られる剥離は全て先行剥離によるものである。14. 縦長剥片を素材とする。石材は不純物のない透明な黒曜石。加工は左側縁に 2 回、急斜度調整を行っている。右側縁、基部には加工

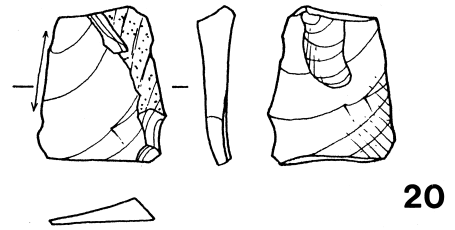
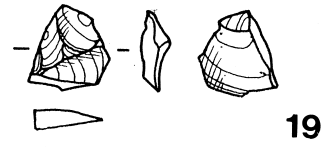
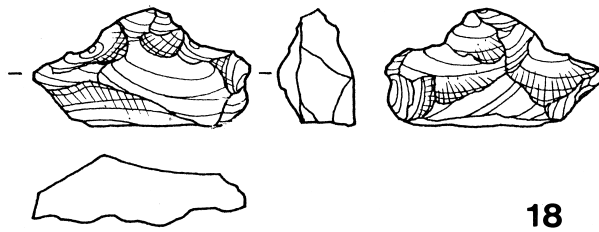


第20図 石器群1 出土石器1 (4 / 5)

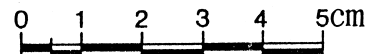
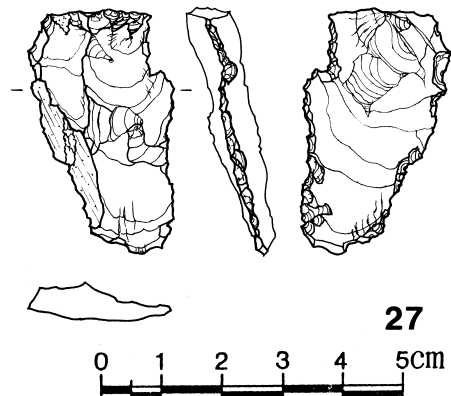
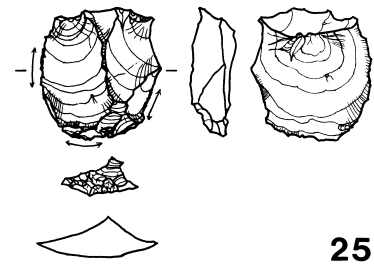
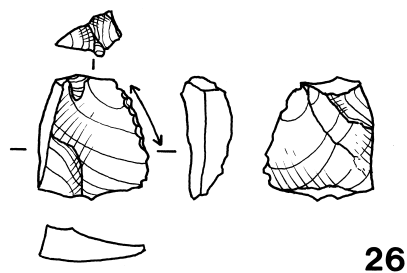
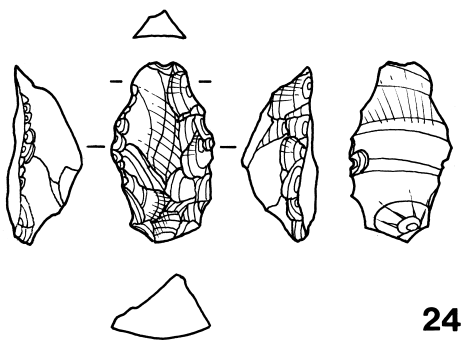
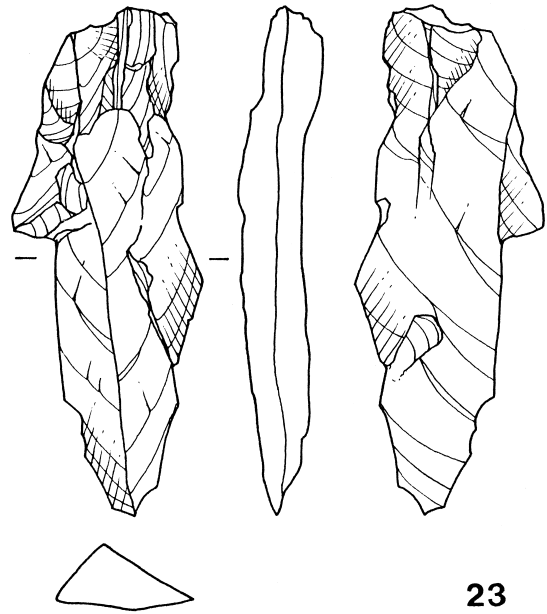
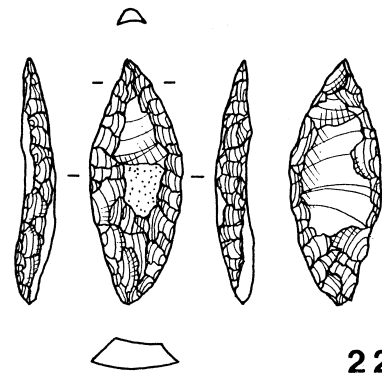
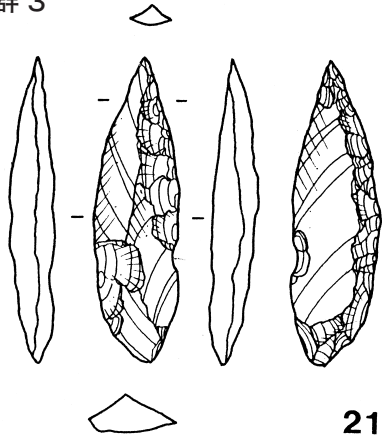


第21図 石器群2 出土石器2 (4 / 5)

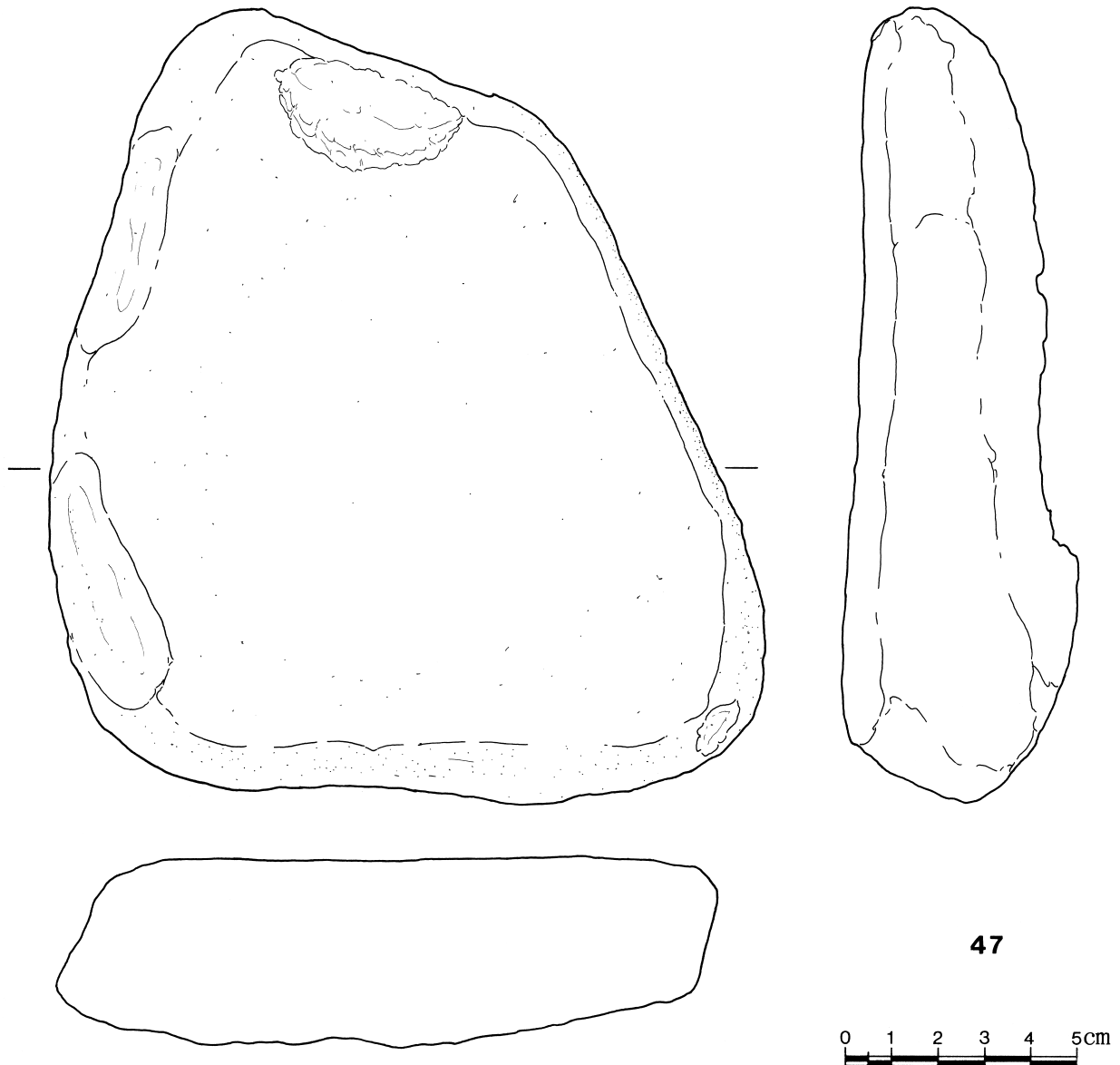
石器群 2



石器群 3



第22図 石器群2・3その他の2地点 出土石器3 (4 / 5)



第25図 石器群4 出土石器6 (2 / 3)

痕はないが、右側縁ではネガティブな切断面が見られる。左側縁には連続する微細な剥離が見られる。形状また微細な剥離痕の位置から考え、ナイフ形石器として使用されたとも考えられる。

15～16. 20. 剥片

15は石刃状剥片。石材は縞の入る半透明の黒曜石。下部は折り取られているようである。加工痕、微細な剥離は見られない。16. 横長剥片。石材は縞の入る半透明の黒曜石。加工痕、微細な剥離は見られない。20. 石刃状剥片。石材は水色のチャート。加工痕はない。左側縁には連続する微細な剥離が見られる。下部は摂理面で折れている。

17. 石核

礫石核。石材は風化により灰褐色化した安山岩。打

面は平坦に加工してある。作業面は4面見られる。まず中央に打撃を加えて横長剥片をはぎ取っている。次に左右に展開。左には2面、左隅から始め、縦長の不定形剥片をはぎ取っている。右には1面、右隅を叩き、横長剥片をはぎ取っている。この後右隅の剥離面を打面とし、右側縁に剥離が行われている。

18. 挟入石器

横長の不定形剥片を素材とする。石材は縞の入る半透明の黒曜石。図指した表裏は実際逆で、主要剥離面は図で表面としたほうである。加工は実際の表面から打点を中心に左右に2か所行っている。

19. 碎片

石材は縞の入る半透明の黒曜石。

石器群3（第22図）

21～22. 尖頭器

21. 縦長剥片を素材とする周縁調整の尖頭器。石材は紺色の塊の混ざるチャート。打点は基部方向。調整は両側縁に行なわれている。右側縁では表面、左側縁では裏面に浅い平行調整を行なっている。基部付近ではほぼ左右対称の位置に、右側縁は裏面に抉り加工が見られ、左側縁には表面に大きな剥離が行なわれている。基部では器幅に合わせて平行調整を行なっている。

22. 縦長剥片を素材とする周縁調整の尖頭器。石材は不純物のない透明な黒曜石。打点は基部方向。整形は表裏両面に周縁加工を行なっている。表面はまず右側縁から加工が始められ、先端部から基部の後にもう一度中央部のみ再調整を行なっている。左側縁では基部から順に中央・基部へと進めている。裏面は逆に左側から始まり、右側へと移行している。調整はナイフ形石器に近く、横断面形は平坦な台形に近い。

23. 剥片

縦長剥片。石材は灰黒色のチャート。加工痕、微細な剥離はない。ところどころ摂理があり、先行剥離、主剥離の方向が変わっている。

その他の出土石器

24. ナイフ形石器

厚手の縦長剥片を素材とする。石材は非常に細かな気泡の入る半透明の黒曜石。打面は自然面を利用、打点は中央よりやや右に残る。整形は右側縁から左側縁の一部にかけて行っている。右側縁では先端部から基部に向かって大きな急斜度調整の後に、細かな調整を行っている。基部は先行剥離面に細かな調整をし、左側縁側で大きな剥離を一度行っている。右側縁の刃部に見られる剥離は新鮮であり、発掘調査作業時にできたと考えられる。

25～27. 剥片

25はすんずまりの剥片。石材は気泡の多い黒曜石。両側縁と下部の一部に微細な剥離が見られる。

26は縦長剥片。石材はチャート。下部は欠損している。左側縁は自然面。右側縁の一部に微細な剥離が見られる。

27は縦長剥片。石材は摂理の多いチャート。裏面

ほぼ全周に表面からの加工が見られる。

本村遺跡6地点

石器群4（第23図）

28～45. 剥片

28から37までが縦長の剥片、38から46までが横長の剥片。石材は28～29、34～37、40～45は風化により灰色化した頁岩。同一母岩である。

28は右側縁に裏面からの急斜度調整を行っている。28～29、41～43には微細な剥離が見られる。30、31は石刃。石材は、30は風化で褐色化しているホルンフェルス。下部は裏面右からの力により切断されている。右側縁には表面に微細な剥離がある。31はチャート。下部は表面中央の稜に力を加えて切断されている。裏面右側縁に微細な剥離が見られる。32は黒曜石。打面・打点は加工により欠損、下部は裏面左隅に力が加わり切断されている。33はチャート。左側縁に抉りとったような加工が見られる。

38は灰褐色の凝灰岩。下部全体に微細な剥離がある。39は風化で灰褐色化しているホルンフェルス。38に同じく下部に微細な剥離がある。

47. 台石

石材は風化により褐色化した砂岩。図面上部の剥離は加工なのか不明。裏面は破碎を受けている。側面は4面とも平坦だが調整によるものではない。

石器群5（第26図）

48. ナイフ形石器

いわゆる台形様石器。石材は不純物の入る漆黒の黒曜石。整形は右側縁の上部にのみ行なっている。大きな急斜度調整を1回行なった後、細かな調整を施している。裏面の剥離は加工ではない。切断は右側縁下部、左側縁から見て裏面からの折り取りによると考えられる。刃部には微細な剥離は見られない。

49～53. 剥片

50. 53は縦長の剥片。49、51～52は横長の剥片。50. 53は夾雑物の入る不透明の黒曜石。

50は下部に加工が見られる。53は表裏とも凹面である。右側縁に微細な剥離が見られる。49は緑色凝灰岩。上部に裏面からの大きな加工があり、碎片と

9 節 礫 群

この時代の遺構は計 7 カ所あり、2 地点で 3 カ所（1～3 号礫群）、6 地点で 2 カ所（4・5 号礫群）、18 地点（6 号礫群）・24 地点（7 号礫群）の各 1 カ所の礫群である。特に 2 地点のは部分的に礫群を形成しているが、調査の時点ではまとまりを把握できなかったので、微視的に便宜的に 3 ブロックに分けて報告する。厳密な基準に基づいて分離したものではない。同一の可能性は大である。

全礫群の総数は 527 点である。構成礫の数は比較的少なく、分布も散漫である。

(a) 1 号礫群（第 32 図、第 10 表）

位置 V-56 区

規模 長径約 6.5 m、短径約 4 m の範囲に分布している。礫の総数は 83 点で、破碎礫で構成されている。総重量 6,054.4 g である。

分布 2 号礫群と近接した分布を示す。礫群底面は 6a 層面にある。垂直分布は標高 16.39～16.56 m の範囲付近に集中する群と、15.85～16.11 m 付近から確認される群がある。

赤化 構成礫 83 点のうち 81 点（97.5%）に赤化が認められる。このうち 7 点（8.4%）については赤化が著しい。また 4 点の割れ面に焼けが認められた。

黒色付着物 31 点（37.3%）に黒色付着物（スス・タール）が認められる。

破損 構成礫 83 点のうち 6 点（7.2%）が完形もしくは半完形礫であり、破損は 77 点（92.7%）に認められた。

重量 最大 374.7 g、最小 4.2 g、平均重量 72.9 g

接合 接合は礫群内で 11 点見られるが、2 号礫群との間での接合も 2 点見られる。礫の大きさは 20 g 台が多く、残存率は 50% 未満が多い。

石材 68 点（81.9%）砂岩、チャートが 11 点（9.6%）その他の石材は 2 点（8.4%）である。

(b) 2 号礫群（第 33 図、第 10 表）

位置 U-56 区

規模 長径約 5.0 m、短径約 4 m の範囲に分布してい

る。南側は調査区域外。礫の集中部はなく分布は疎である。礫の総数は 13 点で、破碎礫で構成されている。総重量 1,418.9 g である。

分布 1 号礫群と近接した分布を示す。垂直分布は 4 層面があり、標高 16.41～16.57 m の範囲を占める。

赤化 構成礫 13 点のうち 10 点（76.9%）に赤化が認められる。このうち 1 点（7.6%）については赤化が著しい。

黒色付着物 4 点（30.7%）に黒色付着物（スス・タール）が認められる。

破損 構成礫 13 点のうち 3 点（23.0%）が完形であり、破損は 10 点（76.9%）に認められた。

重量 最大 391.0 g、最小 12.6 g、平均重量 109 g（接合後は 179 g）である。

接合 接合は礫群内で見られないが、1 号礫群との間での接合が 3 点見られる。

接合距離が 5 m と最大で 7 m を測る。

石材 9 点（69.2%）砂岩、チャートが 3 点（23.0%）その他の石材は 1 点（7.6%）である。

礫の大きさは 100 g 台が多く、残存率は、石材は砂岩が大半を占め、チャートが 2 点を数える。

(c) 3 号礫群（第 34 図、第 10 表）

位置 U-55 区

規模 長径約 4.5 m、短径約 3.5 m の範囲に散在的に分布している。礫の総数は 6 点と少ない。破碎礫で構成されている。総重量 990.8 g である。

分布 2 号礫群と近接した分布を示す。垂直分布は 3 層下部を中心に標高 16.52～16.66 m の範囲を占める。赤化構成礫 6 点のうちすべてに赤化が認められる。このうち 3 点（50%）については赤化が著しい。

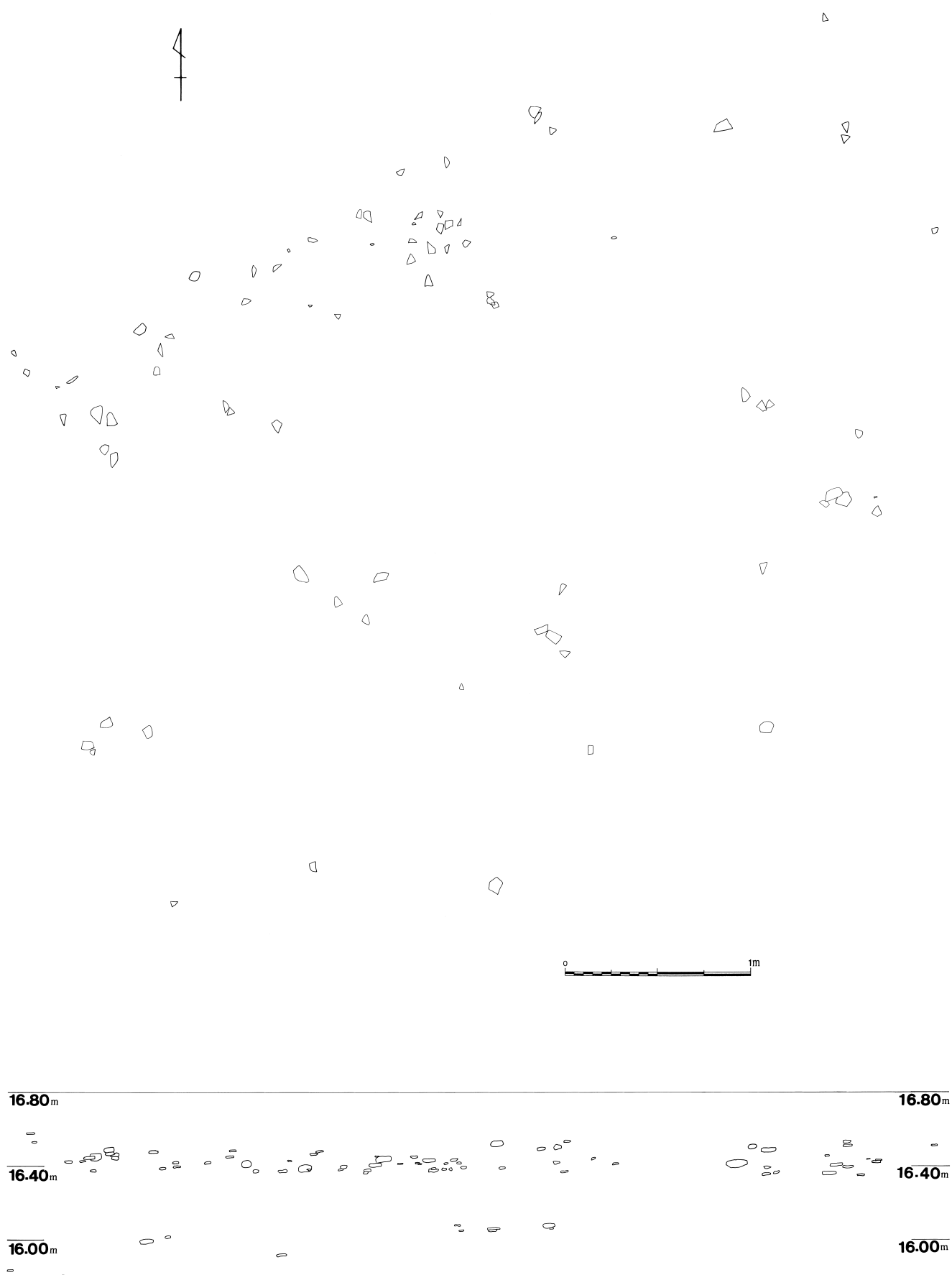
黒色付着物 3 点（50%）に黒色付着物（スス・タール）が認められる。

破損 構成礫 6 点のうち 1 点（16%）が完形もしくは半完形礫であり、破損は 5 点（84%）に認められた。

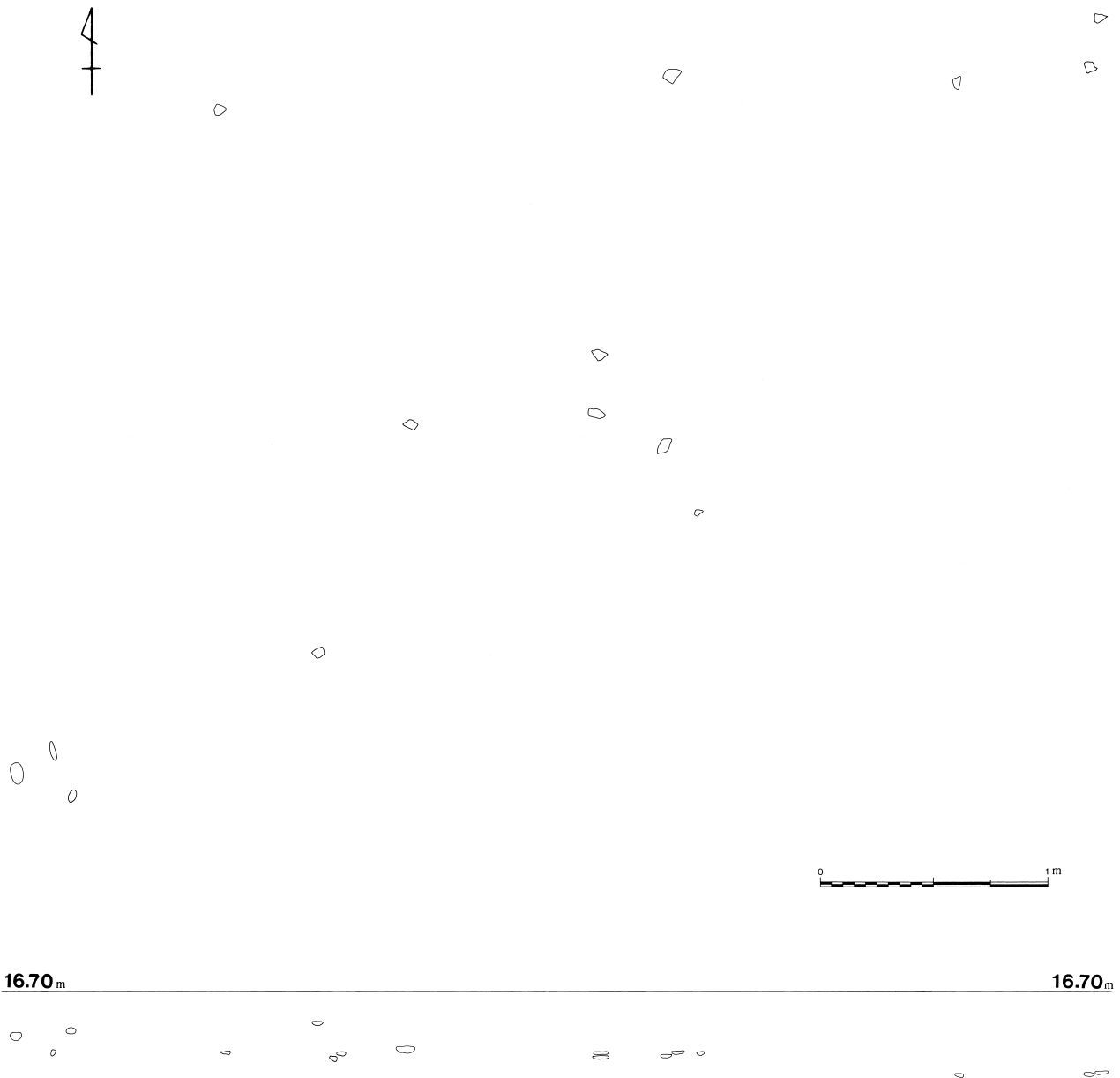
重量 最大 380.3 g、最小 62.0 g、平均重量 165.1 g である。

接合 接合は礫群内で 2 点見られる。

石材 2 点（33%）砂岩、チャートが 3 点（50%）その他の石材は 1 点（17%）である。



第32図 第2地点 1号礫群平面図・断面図 (1 / 30)



第 33 図 第 2 地点 2 号礫群平面図・断面図 (1 / 30)

1 ～ 3 号礫群の礫接合 (第 38 図)

礫群内の接合

1 号礫群の礫群内接合例は 26 点と多く、接合距離の平均は 0.6 m、最も離れた接合例が 2.5 m である。標高差平均は 6.7 cm、最もレベル差がある例が 36.3 cm。

2 号礫群の礫群内接合例はない。

3 号礫群の礫群内接合例は 1 点で、近接しあい距離はない。標高差は 4 cm。

礫群間の接合

1 号礫群と 3 点と 2 号礫群 2 点、接合距離は 6.6 m と 5.6 m。標高差では 3.7 cm ある。接合後の礫群重量は重量別分布図に示したとおりである。

合計の重量分布は、30 g のランクがピークとなり、重量が増えていくにつれ徐々に減少するが、100 g のランクで小さなピークをつくる。(接合後は 220 g) である。

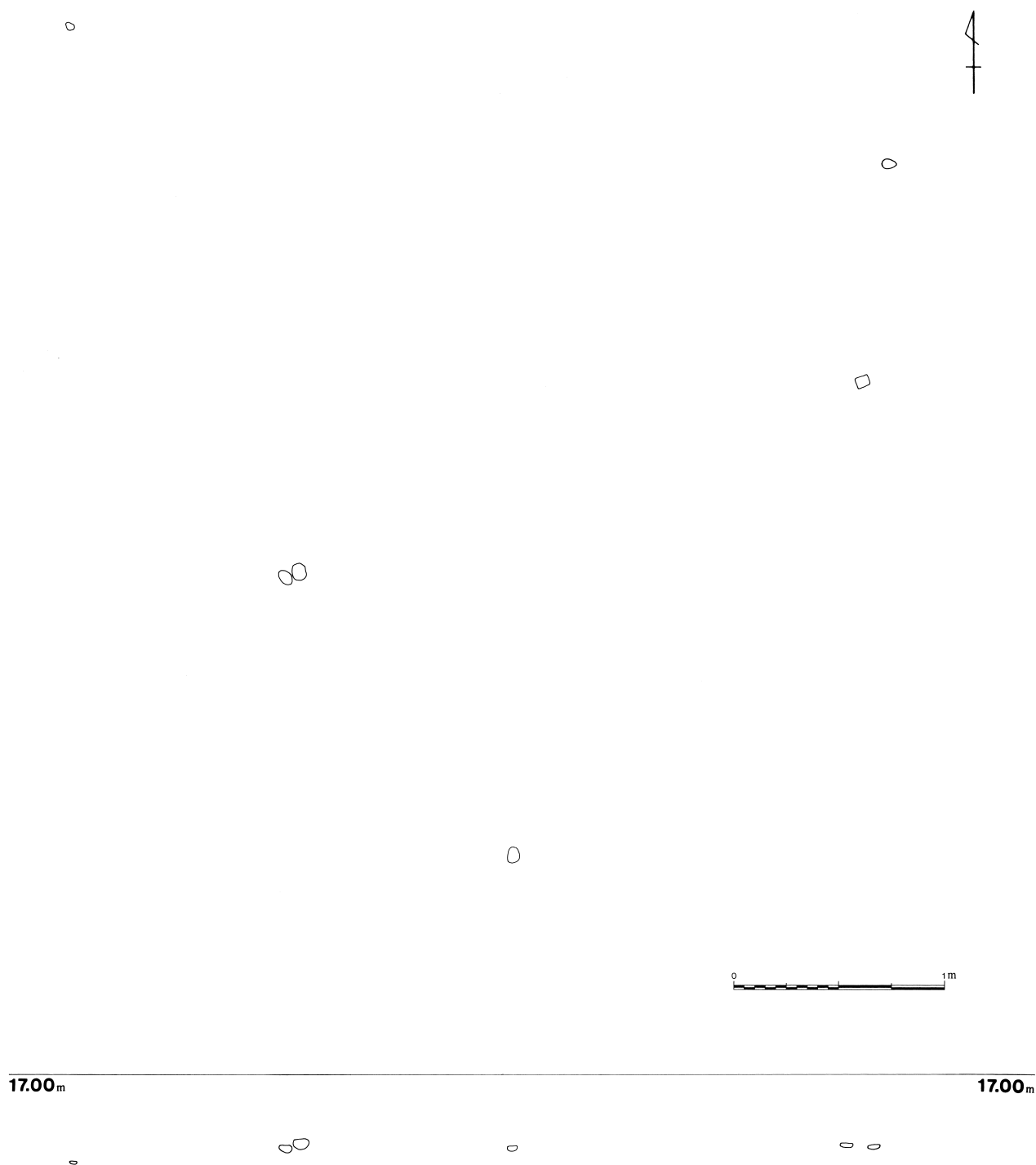
(d) 4 号礫群 (第 39 図、第 10 表)

位置 AA - 18 区

規模 長径約 3.5 m、短径約 1.5 m の南北に長い楕円の範囲に分布している。礫の総数は 134 点で、破碎礫で構成されている。総重量 33,916.8 g である。

分布 礫群底面は IV 層下面にある。垂直分布はほぼ標高 20.30 ～ 20.55 m の範囲内に集中。

赤化 構成礫 83 点のうち 125 点 (96.9%) に赤化が



第34図 第2地点 3号礫群平面図・断面図 (1 / 30)

認められる。このうち46点(35.7%)については赤化が著しく、2点は割れ面に焼けが認められた。

黒色付着物 55点(42.6%)に黒色付着物(スス・タール)が認められる。

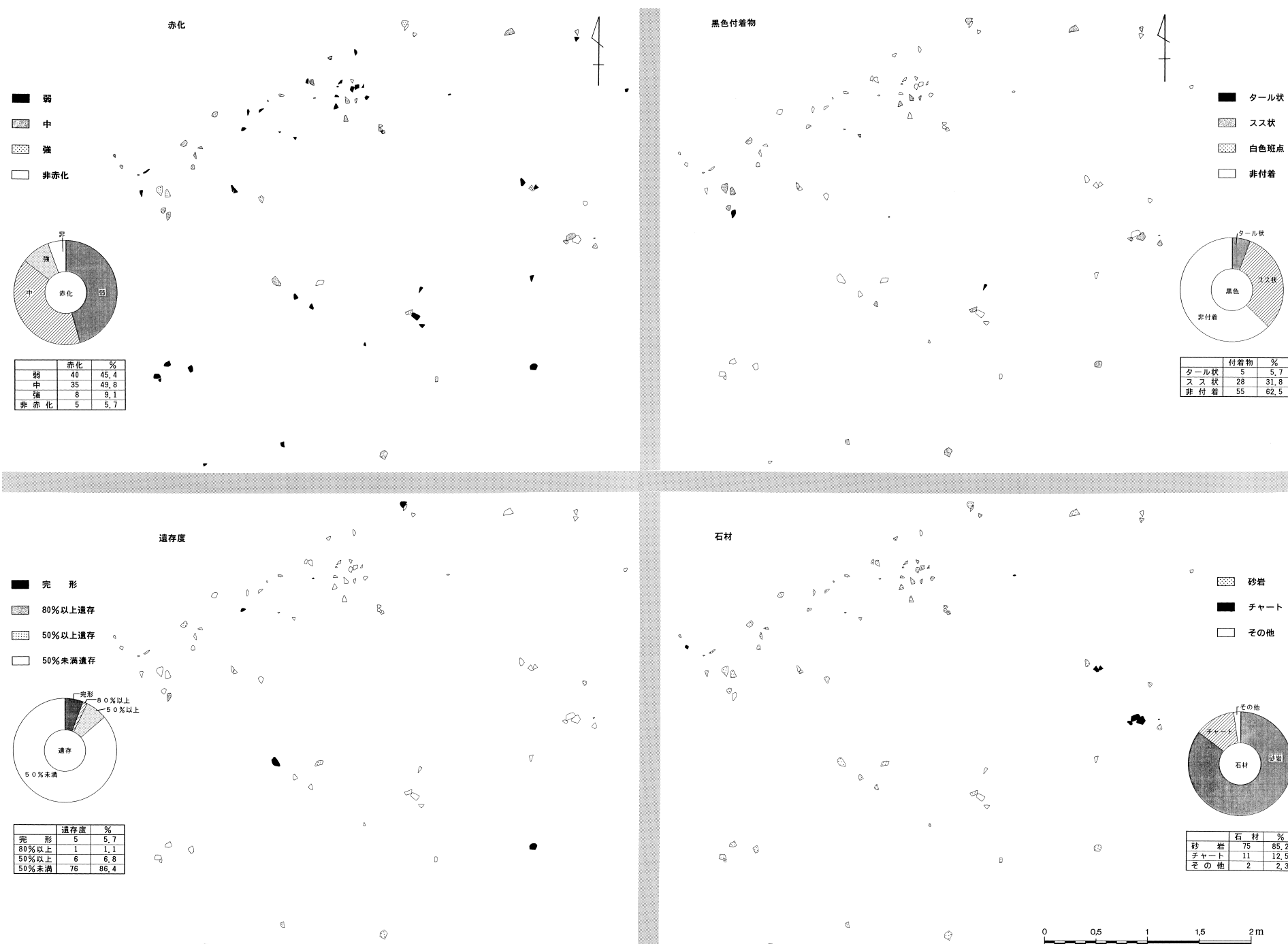
破損 構成礫134点のうち5点(3.9%)が完形もしくは半完形礫であり、破損は124点(96.1%)に認められた。

重量 最大544.0 g、最小17 g、平均重量262.9 g (接合後最大は933 g)である。重量分布は、20 g未満

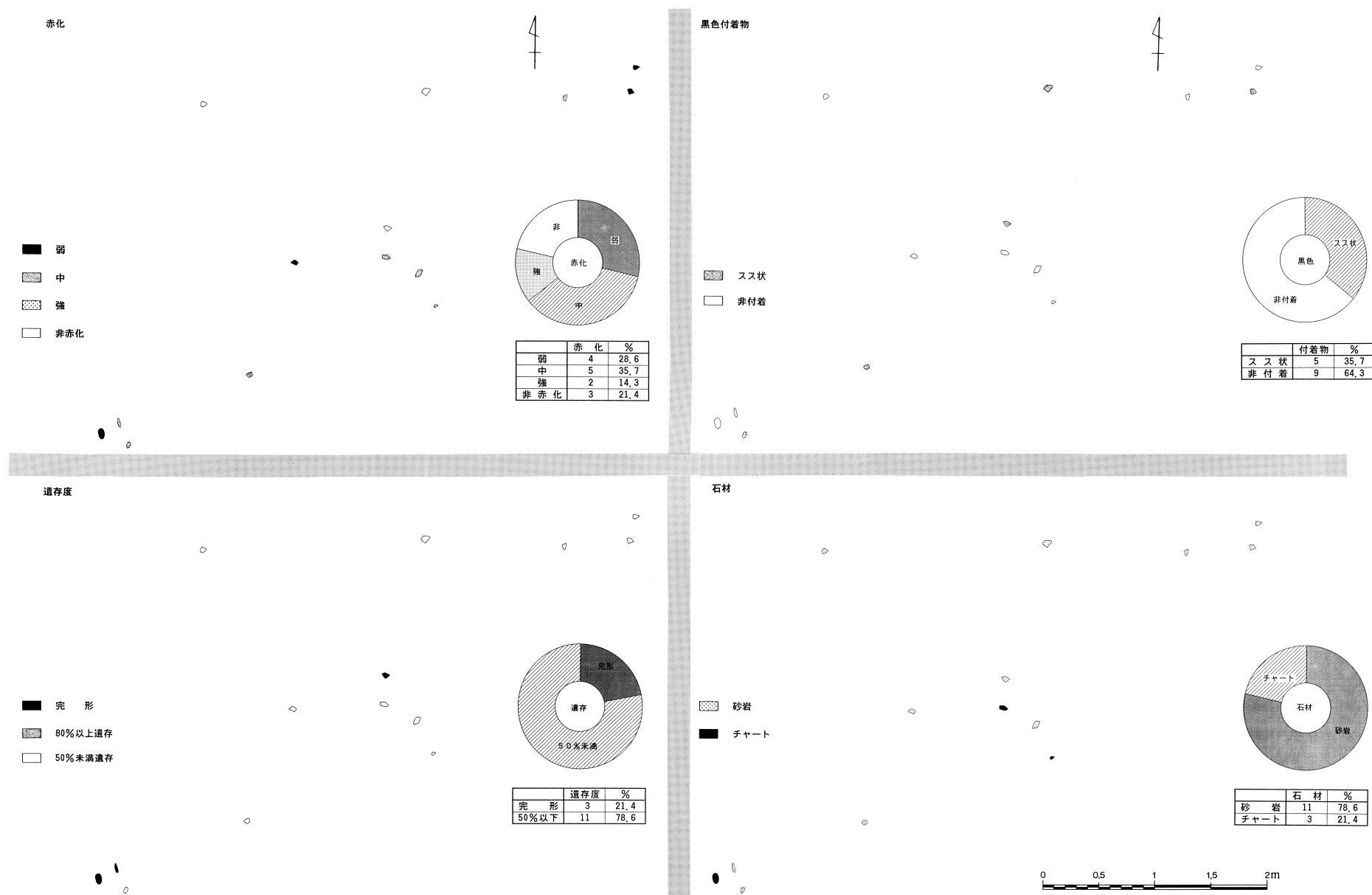
のランクがピークとなり、重量が増えていくにつれ徐々に減少するが、140 gのランクで小さなピークをつくる。

接合 接合は礫群内で、27個体94点で、1個体の平均は3.4点である。礫群との間での接合も2点見られる。礫の大きさは10 g台が多く、残存率は50%未満が多い。

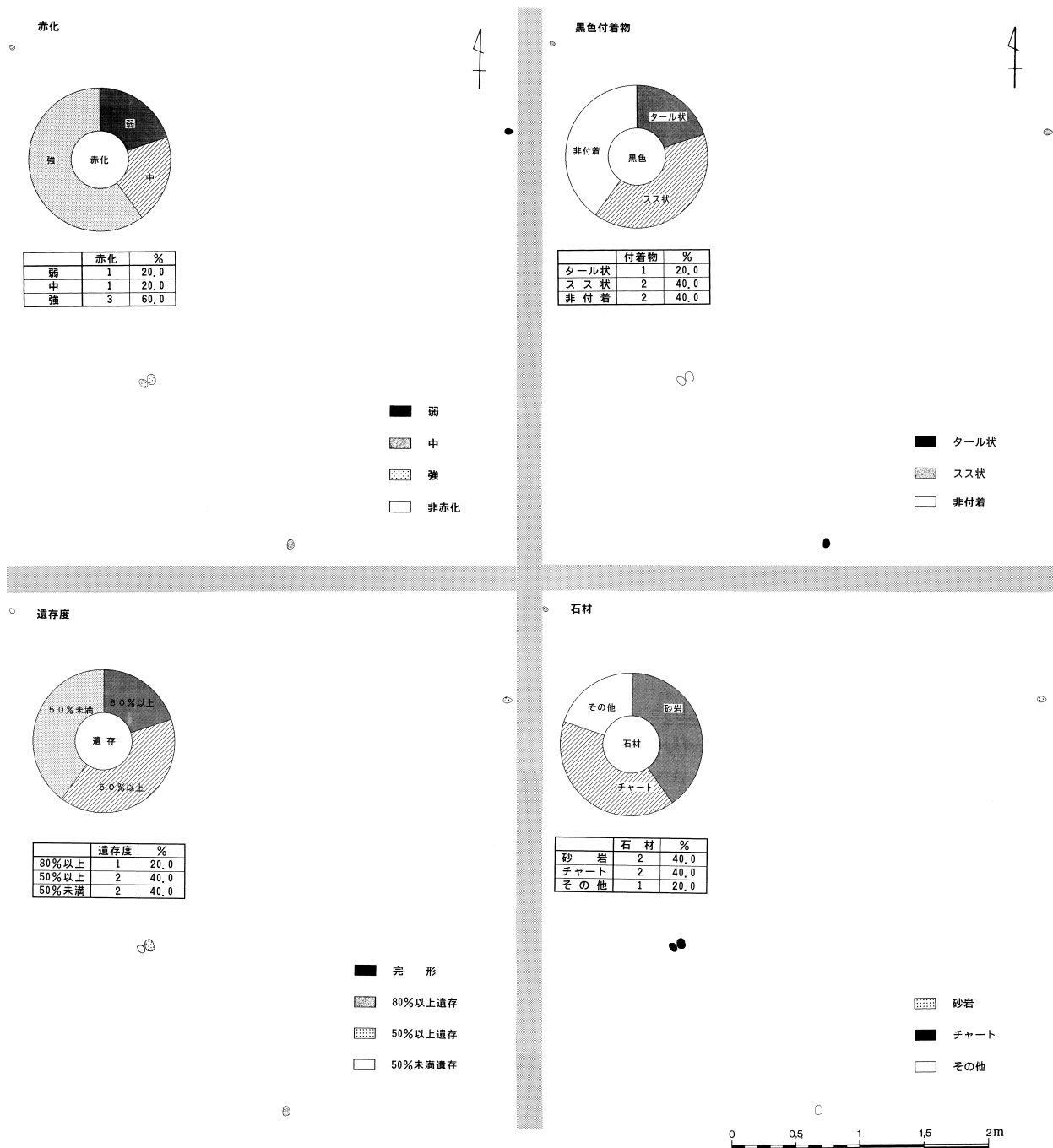
石材 101点(78.3%)砂岩、チャートが27点(20.9%)その他の石材は1点(0.8%)である。



第35図 第2地点 1号礫群属性別分布図 (1 / 50)



第36図 第2地点 2号礫群属性別分布図 (1 / 50)



第 37 図 第 2 地点 3 号礫群属性別分布図 (1 / 50)

(e) 5 号礫群 (第 41 図、第 10 表)

位置 BB-22~23 区

規模 南北約 1 m、東西約 3 m の範囲に散漫に分布している。東と西に小さな纏まりが見られる。礫群と認定するかは問題あるが、一応礫群として捉えておく。

礫の総数は 12 点で、総重量は 1,729.5 g である。

分布 礫群底面は IV 層下に相当し、垂直分布は標高 19.60 ~ 19.92 m に位置する。東に向けて緩く傾斜する地形上より出土するため分布もやや右下に下がる傾向にある。

赤化 構成礫 12 点のうち 10 点 (83.3%) に赤化が認められる。

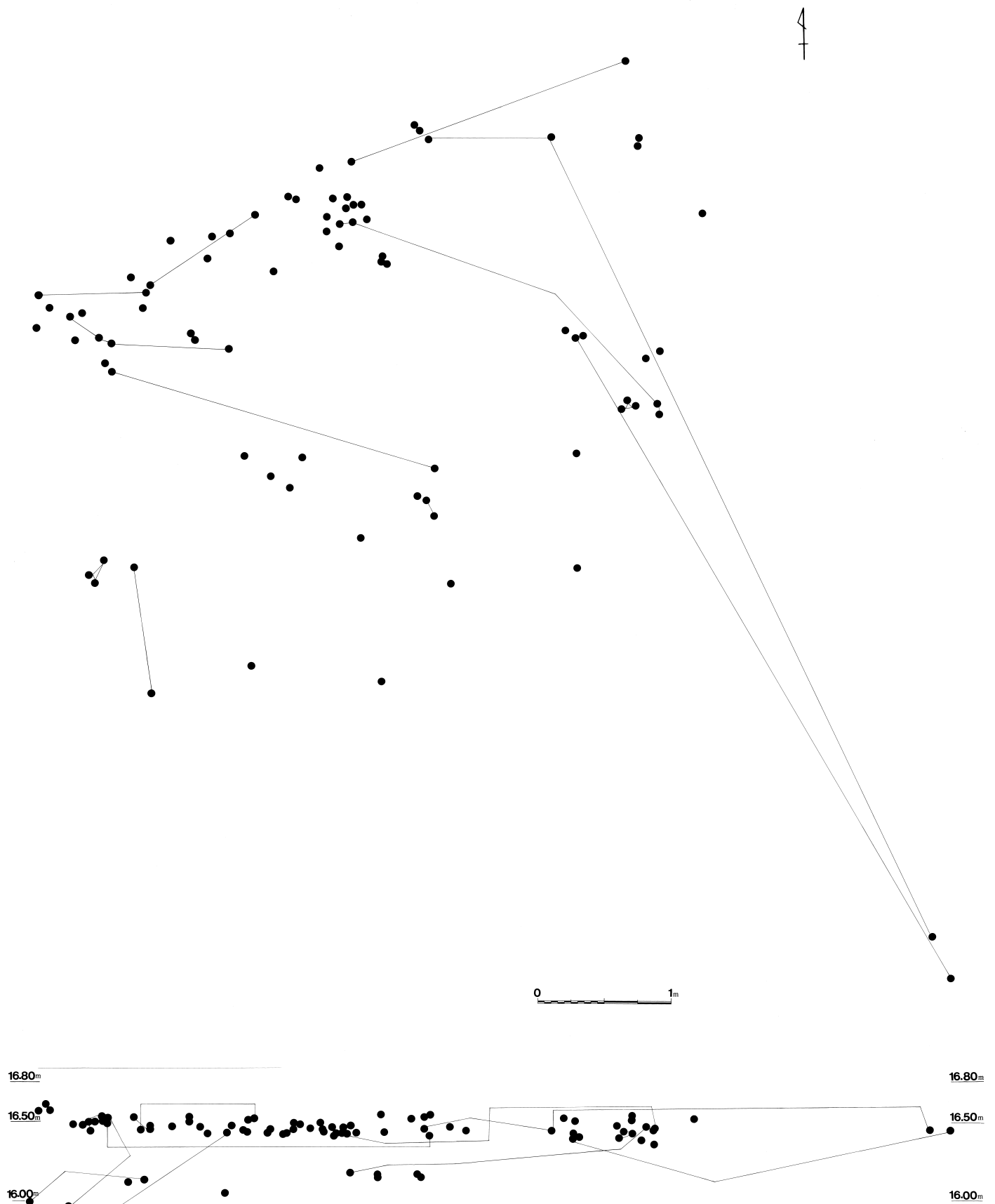
黒色付着物 9 点 (75.0%) に黒色付着物 (スス・タール) が認められる。

破損 構成礫 12 点のうち 4 点 (33.3%) が完形もしくは半完形礫であり、破損は 8 点に認められた。

重量 最大 517.6 g、最小 9.9 g、平均重量 144.1 g である。

接合 接合は礫群内で、1 個体 2 点と少ない。

石材すべて砂岩である。



第38図 第2地点 1～3号礫群接合図・断面図 (1 / 40)

4号礫群と5号礫群の礫接合 (第40・42図)

礫群内の接合

4号礫群の礫群内接合例は27個体94点と多く、1

個体の平均3.4点である。また接合線は67本、1個体の平均は2.4本である。接合距離は50cm以内のものが最も多く、1.5mまで暫時減少し、最も離れた接合

第 9 表 本村遺跡 岩宿時代の石器計測表

図版番号	出 土 地 点 (注記)	出 土 区	器 種	石 材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	標高 m	備 考
石器群 1										
第 20 図 -1	87Bh2-A-49	V-56	ナイフ形石器	黒曜石	3.0	1.8	0.5	2.2	16.468	微細な剥離
2	87Bh2-A-26	V-56	搔器・削器	黒曜石	(3.3)	2.4	1.0	6.5	16.496	サイドスクレーパー
3	87Bh2-A-1	V-56	剥片	黒曜石	4.2	3.9	1.5	16.8	16.437	
4	87Bh2-A-11	V-56	剥片	黒曜石	2.3	2.0	0.6	2.1	16.482	微細な剥離
5	87Bh2-A-25	V-56	剥片	黒曜石	2.7	2.4	1.2	6.7	16.440	微細な剥離
6	87Bh2-A-70	V-56	剥片	黒曜石	4.5	4.4	0.8	13.1	16.450	
7	87Bh2-A-2	V-56	剥片	黒曜石	1.7	1.6	0.7	1.3	16.580	
8	87Bh2-A-23	V-56	剥片	黒曜石	2.5	2.0	0.8	2.7	16.456	
9	87Bh2-A-42b	V-56	剥片	黒曜石	1.8	1.3	0.5	0.7	16.480	
10	87Bh2-A-6	V-56	石核	黒曜石	3.5	1.7	1.4	5.9	16.473	
11	87Bh2-A-42a	V-56	碎片	黒曜石	1.5	1.0	0.3	0.3	16.480	
石器群 2										
第 21 図 -12	87Bh2-A-105	U-56	ナイフ形石器	黒曜石	(2.7)	1.6	0.8	3.4	16.469	尖端欠損、角錐状石器？
13	87Bh2-A-112	U-56	剥片	黒曜石	3.1	2.0	0.7	3.5	16.420	
14	87Bh2-A-106	U-56	剥片	黒曜石	2.8	1.5	0.7	2.2	16.397	ナイフ形石器？
15	87Bh2-A-104	U-56	剥片	黒曜石	2.8	1.7	0.8	3.1	16.466	
16	87Bh2-A-71	U-56	剥片	黒曜石	3.5	2.2	0.8	4.9	16.421	
17	87Bh2-A-98	U-56	石核	安山岩	3.8	8.2	6.0	221.5	16.430	
第 22 図 -18	87Bh2-A-107	U-56	挟入石器	黒曜石	3.6	2.1	1.0	6.4	16.435	
19	87Bh2-A-108	U-56	碎片	黒曜石	1.4	1.2	0.4	0.5	16.412	
20	87Bh2-A-81	V-55	剥片	チャート	2.6	2.1	0.5	2.6	16.552	微細な剥離
石器群 3										
21	87Bh2-F-1	CC-68	尖頭器	チャート	5.1	1.4	0.6	4.1	15.347	
22	87Bh2-F-2	BB-69	尖頭器	黒曜石	4.0	1.5	0.5	3.0	15.361	
23	87Bh2-F-1	CC-68	剥片	チャート	8.3	3.1	1.1	19.2	15.342	
その他の 2 地点の出土石器										
24	87Bh2-A-H	S ~ U-54 ~ 56	ナイフ形石器	黒曜石	2.9	1.6	1.1	3.8		尖端欠損
25	87Bh2-A-H		剥片	黒曜石	2.1	1.9	0.7	2.2		微細な剥離
26	87Bh2-B-H	T ~ U-57 ~ 60	剥片	チャート	2.1	1.8	0.8	2.6		微細な剥離
27	87Bh2-D-1P		剥片	チャート	4.2	2.4	1.8	7.1		
石器群 4										
第 23 図 -28	89Bg6-U1-35	AA-18	剥片	頁岩	2.4	1.5	0.6	1.4	20.435	微細な剥離
29	89Bg6-U1-25	AA-18	剥片	頁岩	2.8	1.9	0.5	1.9	20.545	微細な剥離
30	89Bg6-U1-139	Z-18	剥片	ホルンフェルス	3.4	1.9	0.6	4.7	20.409	微細な剥離
31	89Bg6-U1-110	Z-18	剥片	チャート	7.9	1.9	1.2	23.6	20.535	
32	89Bg6-U1-153	AA-18	剥片	黒曜石	2.2	1.2	0.4	0.7	20.277	
33	89Bg6-U1-97	AA-18	剥片	チャート	1.2	2.0	0.3	0.6	20.538	
34	89Bg6-U1-117	AA-18	剥片	頁岩	3.3	1.0	0.7	1.0	20.460	
35	89Bg6-U1-34	AA-18	剥片	頁岩	1.5	1.8	0.5	0.7	20.379	
36	89Bg6-U1-101	AA-18	剥片	頁岩	2.3	2.2	0.7	2.8	20.571	
37	89Bg6-U1-2	AA-18	剥片	頁岩	2.0	2.1	0.9	1.4	20.576	
第 24 図 -38	89Bg6-U1-38	AA-18	剥片	凝灰岩	2.6	2.2	0.9	3.5	20.415	微細な剥離
39	89Bg6-U1-140	Z-18	剥片	ホルンフェルス	5.3	6.4	1.0	24	20.113	微細な剥離
40	89Bg6-U1-5	AA-18	剥片	頁岩	4.5	3.2	2.7	7.2	20.552	
41	89Bg6-U1-44	AA-18	剥片	頁岩	2.1	3.3	0.8	3.0	20.508	微細な剥離
42	89Bg6-U1-4	AA-18	剥片	頁岩	2.3	3.3	0.5	2.9	20.578	微細な剥離
43	89Bg6-U1-22	AA-18	剥片	頁岩	2.1	3.2	0.9	3.0	20.540	微細な剥離
44	89Bg6-U1-40	AA-18	剥片	頁岩	2.8	2	0.5	1.9	20.417	
45	89Bg6-U1-107	AA-18	剥片	頁岩	1.5	2.2	0.8	2.1	20.521	
46	89Bg6-U1-19	AA-18	碎片	頁岩	1.4	1.5	0.5	0.2	20.506	
第 25 図 -47	89Bg6-U1-1	AA-18	台石	砂岩	17.2	15.4	4.8	1816.8	20.488	

図版番号	出土地点 (注記)	出土区	器種	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	標高 m	備考
石器群5										
第26図-48	89Bg6-U2-4	BB-22	ナイフ形石器	黒曜石	2.5	1.5	0.7	2.4	19.667	微細な剥離
49	89Bg6-U2-2	BB-22	剥片	緑色凝灰岩	3.2	7.8	1.2	27.4	19.716	U2-17 と接合
50	89Bg6-U2-6	BB-22	剥片	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.4	19.649	微細な剥離
51	89Bg6-U2-15	BB-21	剥片	硬質頁岩	3.1	3.4	0.9	9.0	19.665	
52	89Bg6-U2-5	BB-22	剥片	黒曜石	2.4	1.8	0.4	1.2	19.645	
53	89Bg6-U2-7	BB-22	碎片	黒曜石	1.9	0.9	0.4	0.6	19.645	
	89Bg6-U2-1	BB-22	碎片	黒曜石	0.8	0.7	0.2	0.1	19.86	
	89Bg6-U2-3	BB-22	碎片	黒曜石	1.3	0.9	0.6	0.3	19.642	
	89Bg6-U2-8	BB-22	碎片	黒曜石	1.1	1.0	0.4	0.3	19.812	
	89Bg6-U2-9	BB-22	碎片	黒曜石	0.9	0.8	0.5	0.1	19.800	
	89Bg6-U2-11	BB-22	碎片	黒曜石	0.9	0.6	0.2	0.3	19.691	
	89Bg6-U2-25	BB-22	碎片	黒曜石	0.9	0.6	0.2	0.1	19.727	
	89Bg6-U2-25	BB-22	碎片	黒曜石	0.5	0.4	0.4	0.1	19.727	
	89Bg6-U2-17		碎片	緑色凝灰岩						U2-2 と接合
その他の出土石器										
54	Bh3-CH	GG ~ LL-48 ~ 50	剥片	黒曜石	3.1	1.4	0.6	2.0		
55	Bh3-CH	GG ~ LL-48 ~ 50	剥片	チャート	4.7	1.8	0.9	6.9		微細な剥離
56	Bh3-AH	BB ~ DD	剥片	黒曜石	2.8	2.0	0.7	3.0		微細な剥離
57	Bh3-E-7M	P-49 ~ 51	剥片	黒曜石	2.7	2.0	0.6	3.0		微細な剥離
58	Bh3-C4M-P	FF-49 ~ 50	剥片	黒曜石	3.1	1.9	2.0	2.9		
第27図-59	Bh3-A-7D	CC-50	剥片	黒曜石	3.6	2.3	1.4	14		
60	Bh3-B-40P	T ~ X-51 ~ 53	碎片	黒曜石	1.3	1.5	0.3	0.5		
61	Bh3-DH	L ~ M-41 ~ 43	碎片	チャート	2.0	0.6	0.5	0.6		
62	89Bg6-A-M	Y ~ Z-20 ~ 22	尖頭器	黒曜石	(1.6)	0.9	0.4	0.9		1/2 欠損
63	89Bg6		剥片	珪質頁岩	4.6	4.2	0.9	16.5		微細な剥離
64	89Bg6-B-4c-5H	X-16	剥片	チャート	1.3	4.5	2.2	9.4		打面再生剥片
65	89Bg6-A-4-DH	Z-20 ~ 22	剥片	頁岩	4.4	2.0	1.5	12.8		
第28図-66	89Bg6-A-4-DH	Z-20 ~ 22	石核	硬質頁岩	4.7	5.3	2.1	49.3		
67	90Bg15H		錐	黒曜石	2.4	1.9	0.7	2.6		
68	90Bg15-D 区	C ~ CNN-57 ~ 76	剥片	チャート	2.9	2.0	0.7	3.3		
69	90Bg15-B・D 交差	CC-57	剥片	チャート	7.5	5.2	1.6	57.6		
70	91Bg18-19B 区 19D	CC-45	石核	チャート	3.0	2.1	2.7	15.2		
71	Bg-H		剥片	黒曜石	2.6	2.0	0.4	1.7		微細な剥離
第29図-72	Bh3-C・D 南		剥片	チャート	3.7	5.4	1.9	27.4		
73	91Bg19-B 区-10D		石核	チャート	3.1	3.6	2.2	27.5		
74	91Bg21-D-106-1		剥片	黒曜石	2.5	2.2	0.5	2.2		
75	92Bg24-77		剥片	安山岩	2.0	2.0	0.8	2.5		
76	92Bg24-163		剥片	黒曜石	3.3	2.1	1.3	8.4		
第30図-77	92Bg24-P71		剥片	チャート	3.8	3.2	1.5	14.4		
78	92Bg24-52D		剥片	頁岩	3.0	2.5	1.5	6.9		
79	93Bg28-A 区 H		剥片	黒曜石	3.2	1.4	0.8	2.7		
80	93Bg28-B 区 H		剥片	チャート	3.0	3.3	1.0	7.1		
81	93Bg28-C 区		角錐状石器	凝灰岩	5.5	2.5	1.0	12		
82	93Bg28-C 区 H		ナイフ形石器	黒曜石	(2.4)	1.9	1.2	4.7		1/2 欠損
第31図-83	93Bg28-C 区 D8-15		剥片	チャート	5.0	3.4	1.5	21.9		
84	90Bg14-下層		剥片	ガラス質黒色	5.4	4.0	1.6	22.5		
85	93Bg28-H		剥片	黒曜石	4.2	2.0	0.8	3.8		

【凡例】

赤 化：A弱 B中 C強 D非赤化 石材：砂 - 砂岩 チ - チャート 凝 - 凝灰岩 ホ - ホルンフェルス 他 - その他

遺存度：A完形 B80%以上 C50%以上 D50%未満 付着物：Aタール状 Bスス状 C白色斑点 D非付着

第 10 表 本村遺跡 岩宿時代の出土礫計測表

1 号礫群

No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合	No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合
3	砂	3.2	21.0	B	D	D	16.518		53	砂	5.5	69.2	B	B	D	16.430	
4	砂	4.7	27.5	A	D	D	16.521		54	砂	5.0	57.0	B	D	D	16.440	45
5	砂	7.5	165.5	A	A	D	16.545		55	砂	7.1	38.5	B	D	D	16.460	
7	砂	4.0	16.2	A	B	D	16.467	120	56	砂	8.3	106.9	C	B	D	16.515	50a,57,115
8	砂	10.2	369.1	B	B	D	16.442	9,102	57	砂	9.0	269	C	B	D	16.503	50a,56,115
9	砂	7.0	109.0	B	D	D	16.441	8,102	58	砂	4.3	24.9	A	D	D	16.477	
10	チ	3.3	13.3	A	D	D	16.430		59	砂	4.8	50.0	A	D	D	16.476	
12	砂	3.9	11.8	B	B	D	16.430	13,38,39	60	チ	4.2	28.6	B	D	D	16.624	
13	砂	2.6	3.2	B	B	D	16.441	12,38,39	61	チ	5.2	12.5	A	A	D	16.398	88
14	チ	9.3	171.1	B	D	D	16.419	15,16	62a	砂	2.1	4.1	B	D	D	16.560	
15	チ	6.5	108.4	B	D	D	16.410	14,16	62b	砂	4.4	27.4	A	D	D	16.560	63
16	チ	9.0	165	B	B	D	16.379	14,15	63	砂	10	242.3	D	D	D	16.538	62b
17	砂	6.1	73.1	B	B	C	16.363		64	砂	7.2	80.5	C	B	D	16.526	
18	砂	9.4	374.7	A	D	D	16.337		65	砂	5.6	28.3	B	D	D	16.468	
19	チ	5.4	51.5	A	D	D	16.385		66	砂	10.8	197.4	B	D	C	16.485	
20	チ	6.3	94.1	C	D	D	16.376	103	67	砂	2.7	4.2	A	D	D	16.433	
21	砂	8.3	94.0	A	D	D	16.528		68	砂	3.9	24.2	A	B	D	16.415	
22	砂	5.0	28.5	D	A	D	16.408		69	砂	8.4	150.4	B	D	A	16.440	
24	砂	5.6	38.4	B	D	D	16.420		72	砂	7.8	220.3	A	B	A	16.510	
27	砂	5.5	48.2	A	D	D	16.425		73	砂	9.0	285.2	B	B	C	16.561	
28	砂	3.9	22.1	A	D	D	16.462		74	砂	8.2	80.8	A	B	C	16.506	
29	砂	4.4	31.9	A	D	D	16.441		75	砂	3.8	16.0	A	D	D	16.475	76
30	砂	7.0	72.4	B	D	D	16.495		76	砂	7.0	95.8	A	D	D	16.526	75
31	砂	3.4	15.5	A	D	D	16.415		77	砂	6.9	69.0	A	D	D	16.493	78,79
32	砂	3.8	47.0	A	D	D	16.469		78	砂	7.6	100.4	A	D	D	16.423	77,79
33	砂	3.1	6.5	A	D	D	16.440		79	砂	8.1	178.5	A	D	D	16.540	77,78
34	砂	3.9	10.6	A	D	D	16.470		87	砂	6.8	113.9	B	B	D	16.520	
35	砂	4.6	27.0	B	D	D	16.495		88	チ	7.9	132.6	B	A	B	16.495	61
36	砂	5.4	40.9	A	B	D	16.483		89	チ	5.0	44.4	B	D	D	16.490	
37	砂	4.9	27.2	B	D	D	16.418		109	砂	4.3	64.0	A	B	D	16.366	
38	砂	4.2	43.7	B	B	D	16.418	12,13,39	110	砂	5.6	36.9	A	D	D	16.367	
39	砂	8.7	218.3	B	B	D	16.418	12,13,38	111	砂	5.2	40.3	C	D	D	16.383	
40	砂	5.6	72.3	B	D	D	16.445		113	砂	4.6	39.8	A	D	D	16.407	
41	チ	3.4	15.0	D	D	A	16.481		114	砂	4.8	35.5	A	D	D	16.415	
43	砂	3.5	23.5	A	B	D	16.413		115	砂	2.5	7.9	C	B	D	15.85	50a,56,57
44	砂	4.1	7.2	A	B	D	16.415		116	砂	5.5	36.7	B	D	D	15.895	119
45	砂	8.6	204.6	B	B	C	16.513	54	117	砂	3.0	11.6	A	D	D	16.085	
46	砂	2.8	9.1	B	D	D	16.465		118	砂	8.6	109	B	B	C	16.045	
47	砂	4.2	20.8	A	D	D	15.956		119	砂	5.9	73.9	B	B	D	16.060	116
48	砂	5.7	76.5	A	B	A	16.465		120	砂	6.9	40.0	A	D	D	16.110	7
50a	砂	4.2	18.4	C	D	D	16.410	56,57,115	121	砂	8.0	23.3	C	B	A	16.113	
50b	砂	4.1	35.7	A	B	D	16.410		122	凝	6.7	20.7	D	D	D	16.087	
51	砂	4.3	24.4	A	D	D	16.525		123	砂	6.1	38.2	B	D	D	16.094	124
52	ホ	4.6	29.3	D	A	D	16.497		124	砂	4.4	13	B	D	D	16.081	123

2 号礫群

No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合	No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合
90	チ	10.5	391.0	A	D	A	16.521		95	砂	5.0	46.5	D	D	D	16.473	
91	砂	8.1	165.6	B	D	A	16.450		100	砂	5.4	102.4	D	B	A	16.426	
92	砂	7.4	225.3	B	B	D	16.546		101	チ	6.6	54.0	B	D	D	16.433	
93	砂	5.8	62.9	B	B	D	16.575		102	砂	9.0	123.9	B	D	D	16.432	8,9
94	砂	3.7	12.6	A	D	D	16.470		103	チ	4.5	36.1	C	D	D	16.413	20

3 号礫群

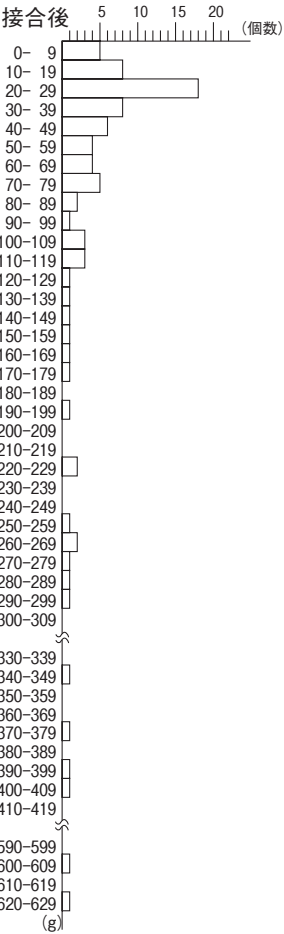
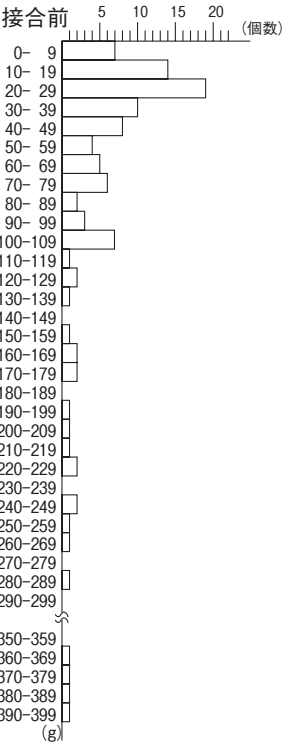
No	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接	合	No	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接	合
80	砂	4.9	62.0	C	B	D	16.577	85		85	チ	8.0	380.3	C	D	C	16.668	84	
82	砂	6.3	126.3	A	B	C	16.580			86	他	7.3	178.4	B	A	B	16.610		
84	チ	8.1	243.8	C	D	D	16.627												

4 号礫群

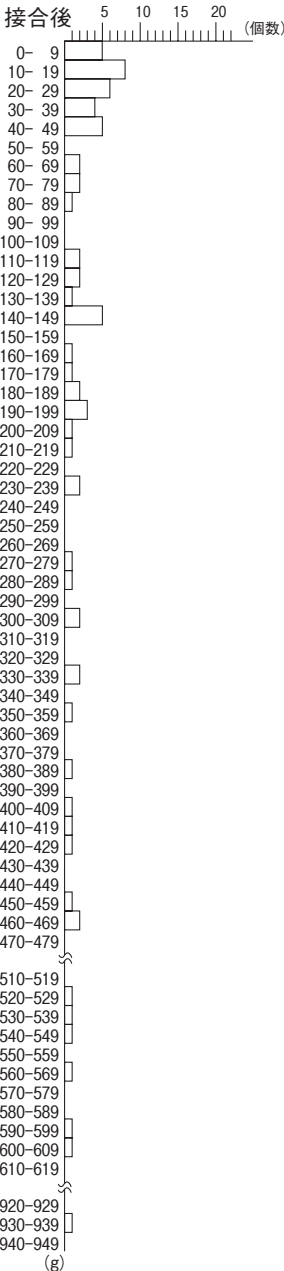
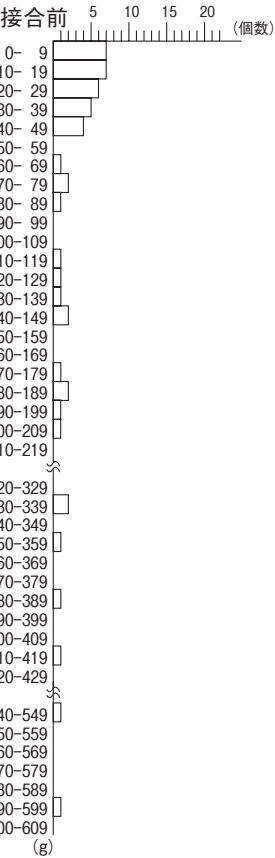
No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合	No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合
1	砂	4.1	* 219.0	A	D	D	20.603	8,97,99,100	38	砂	3.6	* 233.0	B	A	D	20.486	33,37
2	砂	4.4	* 234.0	A	D	D	20.556	49,98,126	39	砂	13.0	336.7	A	A,B	A	20.491	
3	チ	5.1	* 64.1	C	D	D	20.512	4	40	砂	4.0	30.3	A	D	D	20.564	
4	チ	5.3	* 64.1	C	D	D	20.498	3	41	砂	11.0	598.5	B	B	B	20.468	47,61b,62,65,108,124,4DH
5	砂	7.5	136.1	A	D	D	20.468	17,18,24	42	チ	3.0	* 931.3	C	D	D	20.497	
6	砂	2.6	* 145.0	A	A	D	20.531		43	砂	7.8	* 306.5	C	B	D	20.489	88,107,117,129
8	砂	5.1	* 219.0	A	D	D	20.517	1,97,99,100	44	砂	6.2	* 129.2	B	B	D	20.526	A4DH
9	砂	10.2	351.2	B	A,B	A	20.487	11,12,13	45	砂	10.4	382.8	C	A,B	C	20.448	50
10	砂	4.4	* 428.2	B	B	D	20.48		46	砂	8.3	193.0	A	A,B	D	20.479	
11	砂	5.4	* 428.2	B	D	D	20.48	10,12,13	47	チ	7.4	* 931.3	C	D	D	20.586	42,61b,62,65,108,124,4DH
12	砂	7.1	117.5	B	D	D	20.481	10,11,13	48	砂	10.2	* 565.0	A	B	C	20.456	115,116
13	砂	7.6	206.6	B	B	D	20.488	10,11,12	49	砂	6.7	* 234.0	A	B	C	20.526	2,98,126
14	砂	7.5	82.7	B	B	D	20.479	6,18,24	50	砂	10.3	339.4	B	A,B	C	20.456	46
17	砂	5.8	* 145.0	A	A	D	20.543		51	砂	5.1	25.1	C	D	D	20.513	35,53,54,109
18	砂	4.6	* 145.0	A	A	D	20.518	6,17,24	52	砂	7.1	184.1	C	B	D	20.471	
19	チ	8.4	* 286.0	C	D	D	20.469	106,125	53	砂	1.9	* 402.5	C	D	D	20.516	35,52,54,109
20	チ	3.2	16.5	C	D	D	20.448	59,123	54	砂	3.3	* 402.5	C	D	D	20.52	35,52,53,109
21	砂	5.4	* 452.0	C	D	D	20.449		55	砂	8.6	142.4	C	A,B	D	20.471	58,103,122
22	チ	2.5	9.9	D	D	D	20.591		56	チ	10.2	544	C	B	A	20.505	
23	砂	2.1	1.4	C	D	D	20.431	6,17,18	57	砂	6.3	70.9	B	D	D	20.451	
24	砂	4.0	* 145.0	A	A	D	20.446		58	砂	8.7	142.2	B	D	D	20.453	57,103,122
25	砂	7.6	171.0	C	B	D	20.467	70,84,89,131	59	砂	10.9	* 452.0	C	A	D	20.471	21,123
26	砂	6.1	33.9	C	D	D	20.443	132	61a	砂	2.6	* 146.0	A	D	D	20.527	95,96
27	砂	5.5	39.4	D	D	C	20.341		61b	チ	5.4	* 931.3	C	D	D	20.527	42,47,62,65,108,124,4DH
28	チ	5.9	* 40.2	B	D	D	20.363		62	チ	3.8	* 931.3	C	D	D	20.523	42,47,61b,65,108,124,4DH
29	チ	1.5	1.7	B	D	D	20.399	101,102,BM	63	砂	4.9	45.0	A	B	D	20.519	A4DH
30	砂	7.5	* 466.1	B	A,B	D	20.551		64	砂	4.3	* 198.3	B	B	D	20.491	34,66
31	チ	6.0	72.7	C	D	D	20.629		65	チ	2.1	* 931.3	C	D	D	20.466	42,47,61b,62,108,124,4DH
32	砂	4.8	35.2	B	A	D	20.488	37,38	66	砂	6.5	* 198.3	B	B	C	20.425	34,64
33	砂	6.6	* 233.0	B	D	D	20.495		67	砂	5.8	48.3	B	D	D	20.453	25,84,89,131
34	砂	4.6	* 198.3	B	B	D	20.486	64,66	68	砂	4.5	44.8	A	D	D	20.491	
35	砂	4.6	20.0	C	B	D	20.476	52,53,54,109	69	砂	4.0	14.5	A	D	D	20.530	
36	チ	5.2	29.7	C	D	D	20.572	33,38	70	砂	7.2	* 461.5	A	B	D	20.437	25,84,89,131
37	砂	6.1	* 233.0	C	A	D	20.506		71	砂	7.5	* 272.4	A	D	D	20.430	90,A4DH

No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合	No.	石材	長さ cm	重量 g	赤化	付着物	遺存度	標高 m	接 合
77	砂	6.4	106.1	A	A	D	17.836	76	96	砂	11.8	312.8	B	B	D	17.818	98a
78	チ	6.3	25.1	C	D	D	17.869	46,79,88,90,111	97	砂	9.3	360.0	A	A	A	17.824	
79	チ	4.8	28.2	C	A	D	17.829	46,78,88,90,111	98a	砂	10.8	236.8	B	B	D	17.822	96
80	砂	3.3	15.3	D	D	D	17.941		98b	砂	9.0	131.8	A	D	D	17.822	72
81	砂	7.2	38.7	A	D	D	17.909	84,89	99	砂	7.2	67.7	A	A	D	17.843	91,100a,105
82	砂	3.6	14.9	A	B	D	17.769	83	100a	砂	11.3	169.8	B	A	D	17.796	91,99,105
83	砂	4.5	59.6	A	B	D	17.849	82	100b	砂	9.4	469.9	A	A	B	17.796	
84	砂	7.6	80.0	A	B	D	17.861	81,89	101	砂	5.2	11.1	A	A	D	17.944	
85	砂	5.2	16.8	B	B	D	17.898		102	砂	4.6	24.1	C	D	D	17.947	47,50,62
86	砂	4.4	14.1	A	B	D	17.934	49,65,67,74	103	砂	4.9	18.8	A	D	D	17.842	48,56,57,58
87	砂	4.6	16.3	A	A	D	17.834		104	砂	3.5	6.1	B	A	D	17.829	
88	チ	7.1	22.7	C	A	D	17.89	46,78,79,90,111	105	砂	6.2	41.2	A	A	D	17.859	91,99,100a
89	砂	6.9	43.0	A	A	D	17.845	81,84	106	砂	6.5	114.0	C	B	D	17.870	45,54,59
90	チ	5.1	39.2	C	A	D	17.821	46,78,79,88,111	107	砂	5.2	21.7	B	D	D	17.751	55,73,75
91	砂	8.7	121.8	B	A,B	D	17.811	99,100a,105	108	砂	7.0	79.3	C	A	D	17.847	
92	砂	3.7	26.7	A	A	D	17.838		109	チ	8.9	165.2	B	D	D	17.798	52,61,63
93	砂	3.6	13.0	B	D	D	17.849	68,69,95,110	110	砂	5.2	27.6	B	A	D	17.919	68,69,93,95
94	砂	4.8	13.5	A	A	D	17.889		111	チ	4.2	28.6	C	D	D	17.915	46,78,79,88,90
95	砂	4.3	17.0	B	D	D	17.909	68,69,93,110									

1 ～ 3 号礫群



4 号礫群



第 51 図 1 ～ 3 号・4 号礫群重量分布図

第3章 縄文時代

10節 遺構

本遺跡からこれまでの調査で確認された縄文時代の遺構と遺物は第1章のとおり多くはない。このうち焼土跡2基・集石土坑1基・土坑31基を報告する。遺構の分布を見ると焼土跡は微高地上、集石土坑・土坑は遺跡南側の砂川に面した低地部に集中する傾向がある。以下、縄文時代の遺構について、焼土跡・集石土坑・土坑の順に報告する。なお、調査当時の番号とは異なるため、それぞれの遺構一覧表に旧番号を記した。

(1) 焼土跡

本遺跡の第28地点からは、焼土跡が7基確認されている。1基を除いて2基ずつ近接して検出された。焼土跡の分布は点在という状況で密集はしていない。たぶん中世以降の地形の遊作による消失も考えられる。掘り方としての堅穴構造はもっていないようである。焼土集中部分の下位に火熱の影響によると考えられる範囲を有する。いずれも様相は異なるが焼土を多少含む土壌で、火熱のため周辺と状況が変化した層が底面を成していた。掘り込みも浅く確認面に焼土の範囲が認められた程度で、7基のうち2基のみ断面図を作成することができた。帰属時期は不詳。

1号焼土跡（第55図）

本焼土跡はX-19区の位置から確認された。南1.5mには2号焼土跡が近接する。平面形態は円形を呈し、規模は確認面で長径0.7m、短径0.54m、底面で長径0.63m、短径0.4mを測る。底面はほぼ平坦で、皿状に立上がり、深さは中央部で0.31mを測る。覆土は単層で、焼土をベースにする暗褐色土層。遺物の出土はない。

2号焼土跡（第55図）

本焼土跡もX-19区の位置から確認された。平面

形態は円形を呈し、規模は確認面で長径0.65m、短径0.48m、底面で長径0.56m、短径0.4mを測る。底面はほぼ平坦で、皿状に立上がり、深さは中央部で0.2mを測る。覆土も1号焼土同様に、焼土をベースにする暗褐色土の単層。遺物の出土は皆無であった。他の焼土については掘り込みをもたず、範囲のみ確認された程度であった。焼土の範囲は長径40～90cm、短径30～60cmである。

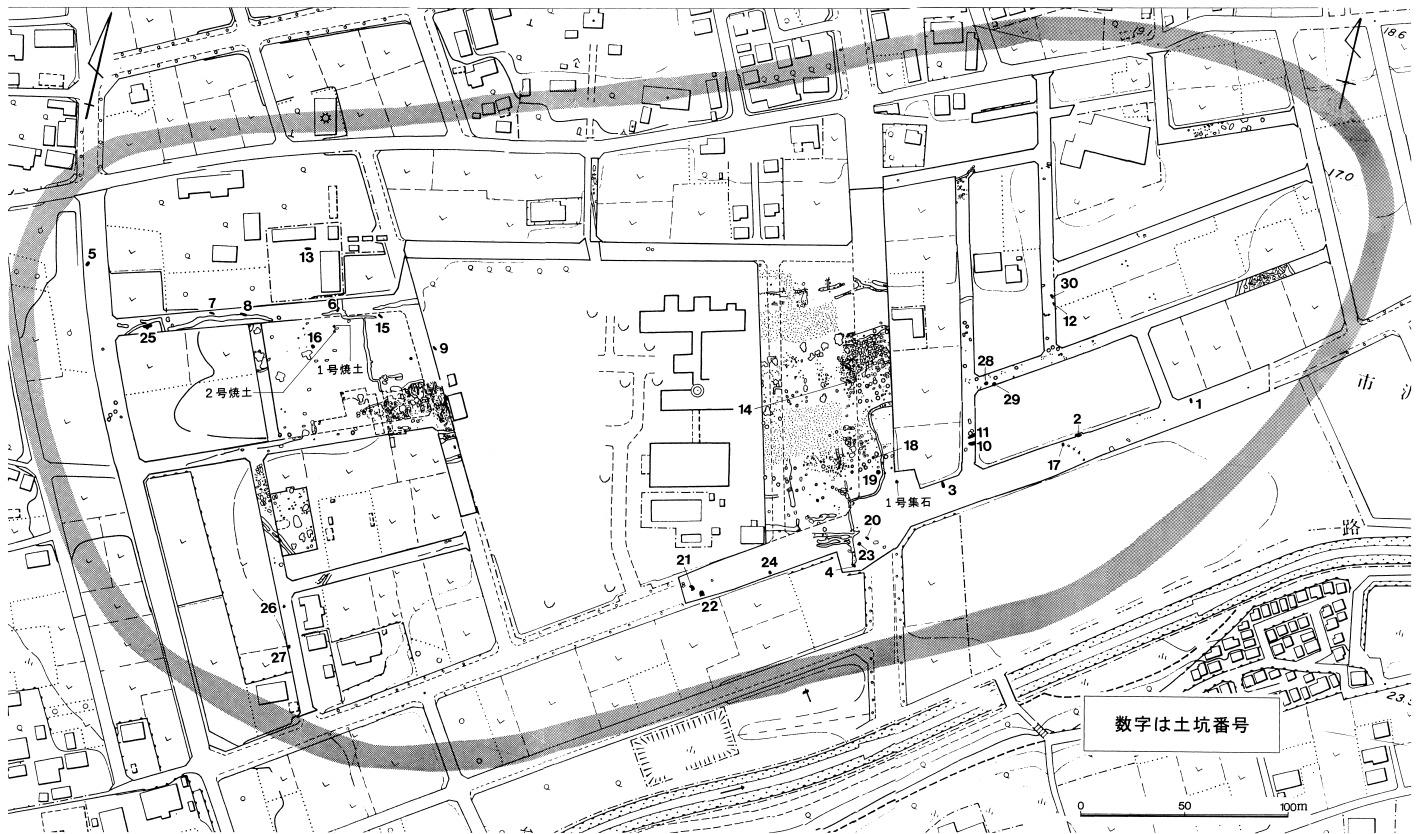
(2) 1号集石土坑（第55図）

本集石はV-54区（第2地点）で確認された。礫は確認面から比較的まとまって出土した。これらの礫を記録して、取り上げ精査したところ、礫の集中が認められ、その礫群が暗褐色の覆土をベースとする土坑の中に包含されていることが判明した。土坑の平面形態は隅丸方形を基調にする不整形で、規模は確認面で長径0.98m、短径0.81m、底面で長径0.58m、短径0.51mを測る。土坑の長軸方向はN-46°-Wを指す。土坑の深さは中央部で約25cmを測り、覆土は2層に分層された。1層は締まりの良好な暗褐色土で礫を多く含んでいた。礫は東から西に傾斜して流れ込んでいたのが認められ、中層に炭化材が良好に遺存していた。この炭化材を試料としてC¹⁴年代測定で得られたBP年代は4630±130であった。

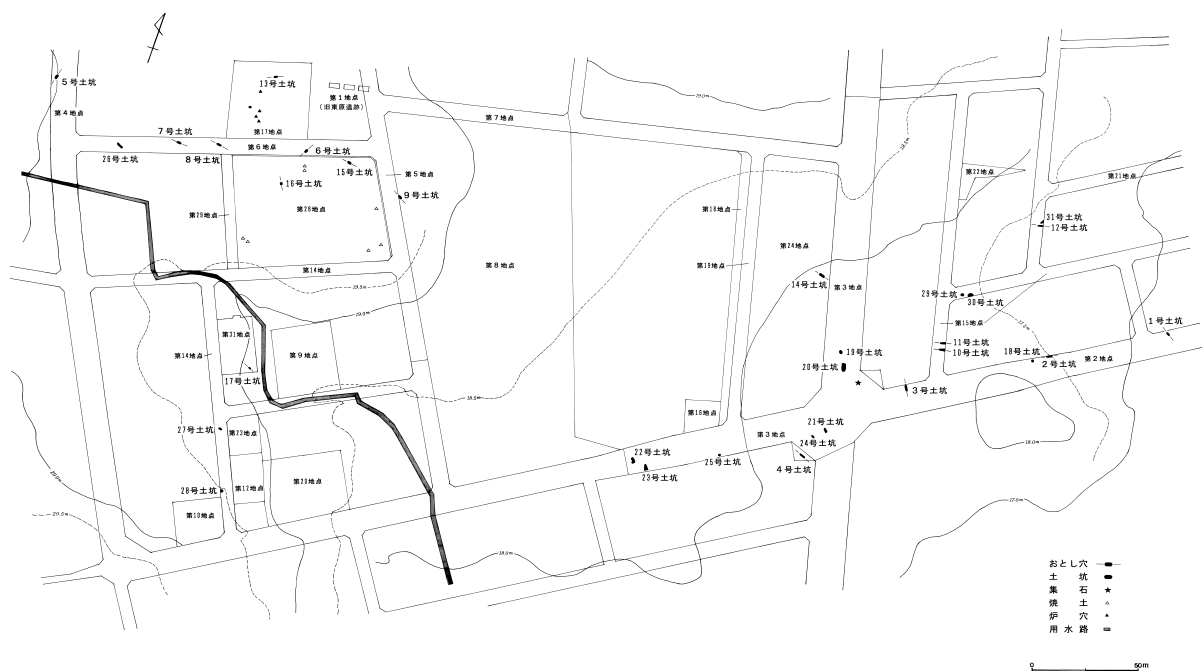
礫は総数500点を数え、総重量は39,543gを量る。10g以下の細片も含んだ礫の平均重量は、79.1gであった。礫は大形のものはない。完形礫は190個。被熱による礫の赤化率は42.8%、タール付着率は31.2%を占め、完形礫は16点であった。礫の接合を行なったところ、78個が接合した。その結果、礫の平均重量は93.7gとなった。遺物は出土していない。

(3) 土坑

本遺跡からは、縄文時代の土坑は35基確認された。いわゆる「おとし穴」と称される土坑が21基で半分



第 53 図 縄文時代の遺構分布図 (1) (1 / 3570)

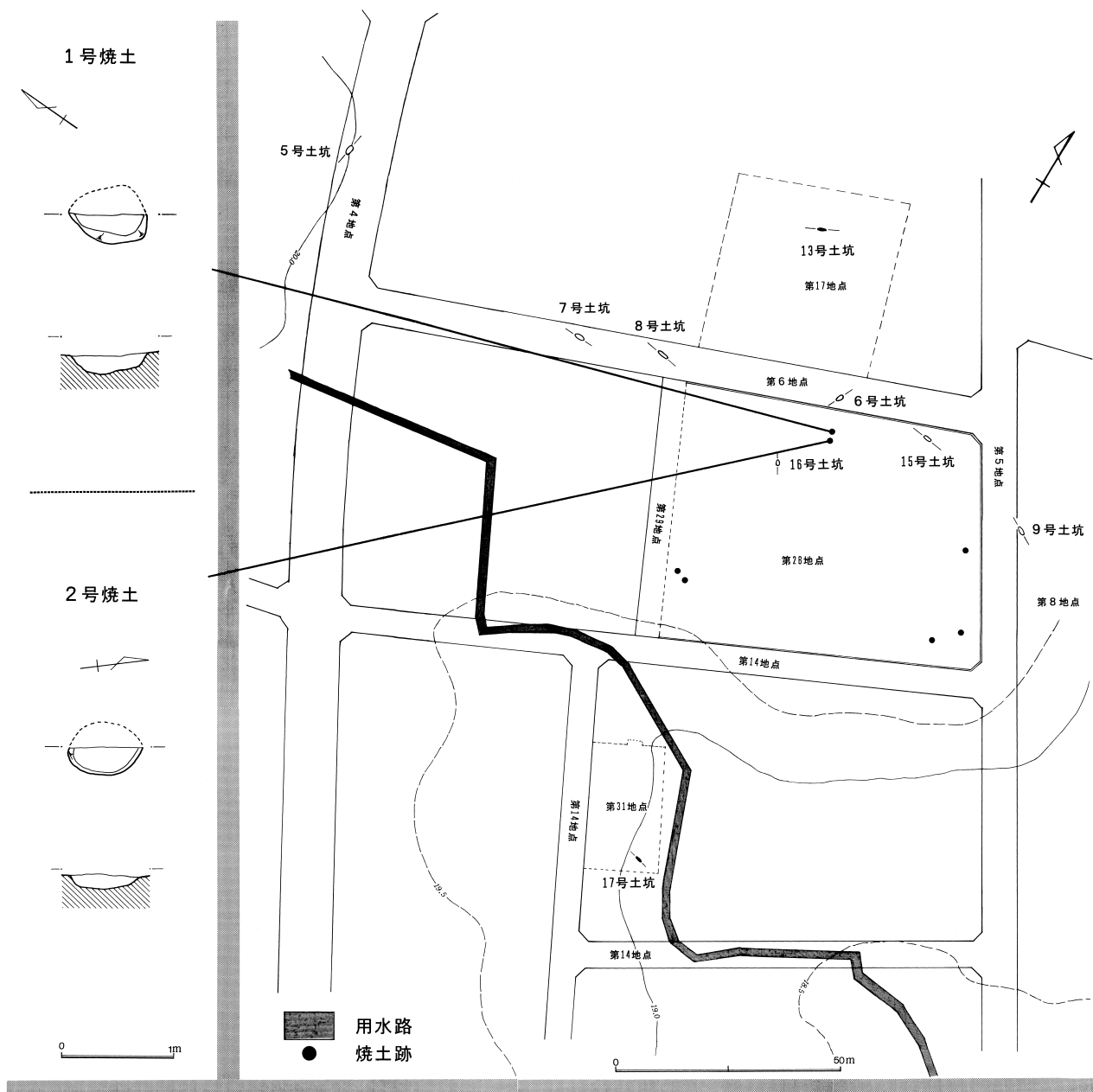


第 54 図 縄文時代の遺構分布図 (2) (1 / 3750)

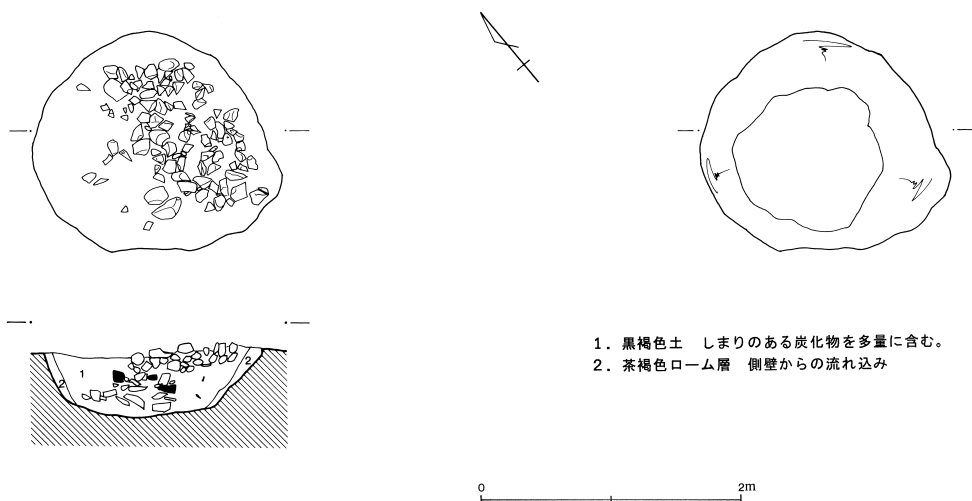
以上を占めていた。6・28 地点の微高地部分から 5 基と 2・3・4・15・24・31 地点の低地部分から 16 基の合計 21 基が確認された。当初の調査段階では下部施設の平面形態、土坑自体の覆土と下部施設の覆土との関係を重視しており、截ち割りによる調査は行っていない。

しかしながら截ち割り調査は行わなくとも、下部施設の存在を認識さえしていればその検出・調査は可能と考えられる。

本村遺跡は中世集落主体の遺跡である。よってその範囲も該期遺構等の確認から限定されたものである。したがって本遺跡の縄文時代遺構の分布については現



1号集石



第55図 焼土跡位置図 (1 / 1500)・焼土 (1 / 60)・1号集石 (1 / 60)

範囲内とは必ずしも一致しない。その上で縄文時代土坑の分布状況を概観するなら、遺跡を大きく東西に分けて、東の北側からはまったく確認されていない。地形図でわずかに読み取れた小さな微高地の周辺部にまとまる傾向を示す。西側も微高地部分の縁辺部に集中する傾向がある。このことは出土遺物からも同様なことがいえる。遺物の多くは遺構外からの出土であるが、出土箇所は土坑が分布する両微高地近辺である。特に早・前期の遺物の大半は東側の3・24地点からの出土で、中・後期の土器片は西側からも出土し、埋没河川内から堀之内式期が出土している。

土坑の平面形態、規模、出土遺物、分類などについては一覧表を作成したので、それを参照されたい。ここでは下部施設による分類の基準を明らかにして、表で不足する事項についてのみ述べていくことにする。

土坑の分類は、掘り込みが浅くて不整形を呈するものをC型として区別した。おとし穴については下部施設の数などによって2種類に分類した。分類基準は以下のとおりである。

A型：坑底に小ピットを有するおとし穴。

B型：坑底に下部施設・ピットをもたないおとし穴。

C型：掘り込みが浅く、不整形を呈する土坑。

以下、この分類に準拠して補足説明を行なう。

A型土坑（1～3、8、12、16、17号土坑）

坑底に小さなピットを持つ土坑で、7基を数える。平面形態は、楕円形あるいは長楕円形を呈する。A型土坑の分布は8,16号土坑を除いて遺跡全体の南側に多い。また密集性は低く、単独で構築されたような状況を呈している。1～3号土坑は50～60m間隔で分布し、覆土や形態も共通性を持っている。覆土からの遺物は礫のみで、时期的な問題には何ら言及できない。縄文時代に帰属する他遺構との切り合い関係もない。

1号土坑（第56図）

プラン確認段階で、明瞭に判断できた遺構の一つである。つまり確認面が白色がかった黄褐色土ローム層で、覆土最上層部はたいへん締めりのある黒味の強い褐色土で対照的な色調であったためである。覆土は大別して2層である。大変締めりの強い黒褐色土と、2層以下の層はロームを混じるが粘性に富んでくる。底

面は白色粘土層に達し、小ピットを3本もつ。

2号土坑（第56図）

平面形態は長楕円形を呈し、坑底には、ピットが7カ所認められている。ピットは壁際に偏在する傾向にあり、東側の坑底面は西側と比較して約20cm下がる。覆土は1号土坑に近似する。遺物の出土はない。

3号土坑（第56図）

2号土坑の西約55mから確認された。平面形態は長楕円形を呈し、坑底には4カ所のピットが確認された。北側壁は一部オーバーハングしている。1・2号土坑底のピットと比較して長方形を呈するものも認められた。覆土は1号、2号土坑と共通する。

遺物の出土はない。

8号土坑（第57図）

遺跡西南部の微高地中央部から確認された。平面形態は長楕円形を呈し、坑底中央部に1カ所のピットが確認された。ピットは35×30cmで深さ45cm。覆土は全体に締めり強い。遺物の出土はない。

12号土坑（第58図）61－ii区に位置する。

これまでのおとし穴とは異なる構造を有する。平面形態はやや長い楕円形で弓型を呈する。中央部に70×45cm、深さ90cmのピット状の掘り込みをもつ。坑底はやや凹凸があり15cm前後と浅い。遺物の出土はない。

16号土坑（第58図）

7号土坑の東側7mより確認された。平面形態は隅丸楕円形を呈し、坑底に3カ所のピットがやや北側に偏るよう確認された。それぞれの深さは8.1cm、13.4cm、27.6cmと比較的浅い。土坑全体の覆土は締めり強く、粘性も有る。遺物の出土はない。

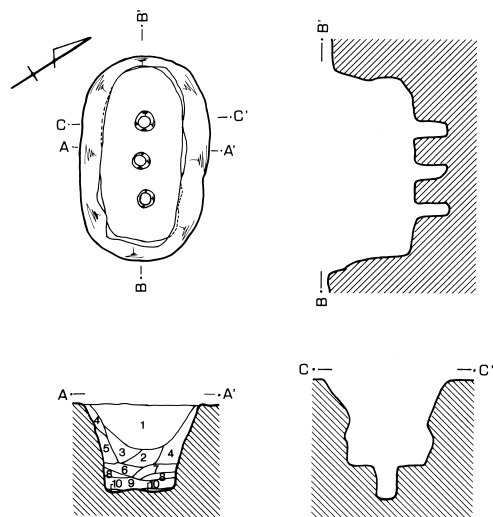
17号土坑（第58図）

低地面の31地点より出土した。平面形態は楕円形を呈し、坑底に2カ所のピット状の浅い凹みが確認された。それぞれとも深さは約10cm前後である。土坑全体の覆土は締めり強く、粘性は強くベタつく。遺物の出土はない。

B型土坑（4～7、10、11、14、15号土坑）

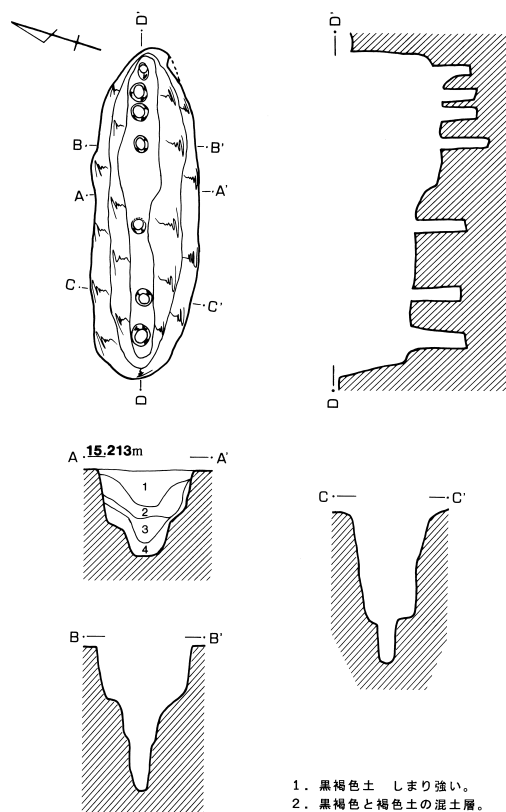
坑底に下部施設をまったくもたない土坑で、8基を数える。平面形態は、楕円形あるいは長楕円形を呈す

1号土坑



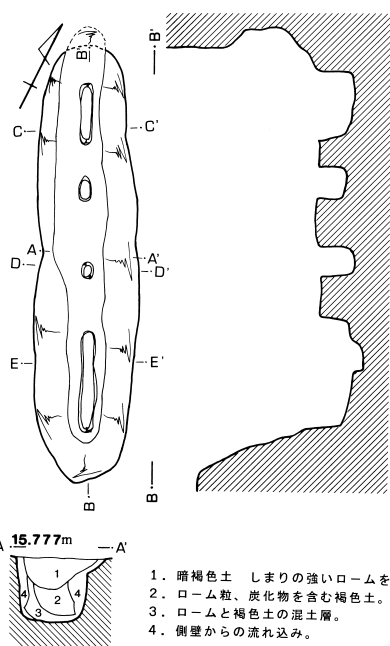
1. 黒褐色土 しまりの強い。
 2. 褐色土 ローム粒を含み、粘性強い。
 3. ロームブロック混入の黄褐色土。
 4. 黒褐色土とロームブロックの混土。
 5. ロームブロックが主体。
 6. 上層と近似、やや黒っぽい。
 7. 暗褐色土。
 8. ロームブロックが主体。
 9. 暗褐色土（粘性特に強い）
 10. 粘土層（白色粘土層）
- 側壁からの流れ込み。

2号土坑



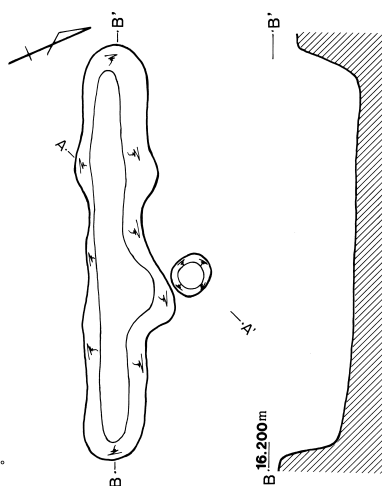
1. 黒褐色土 しまり強い。
2. 黒褐色と褐色土の混土層。
植物の茎根痕を残す。
3. 褐色土。
4. ローム。

3号土坑

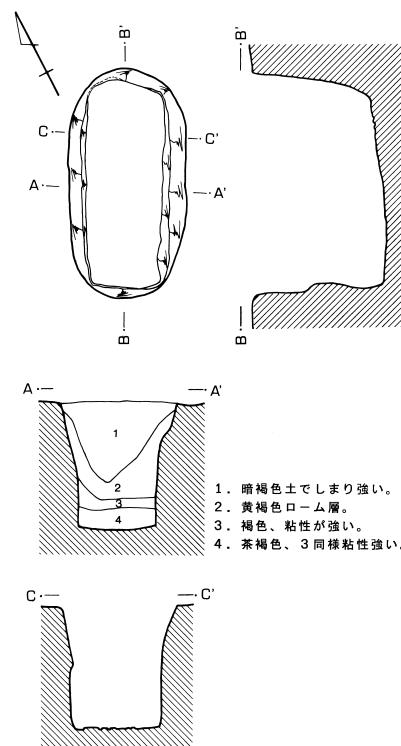


1. 暗褐色土 しまりの強いロームを含む。
2. ローム粒、炭化物を含む褐色土。
3. ロームと褐色土の混土層。
4. 側壁からの流れ込み。

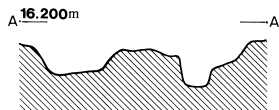
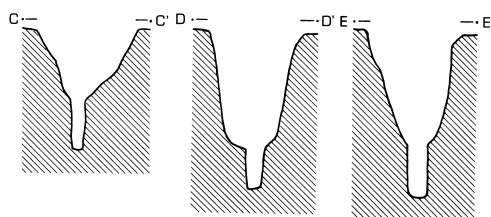
4号土坑



5号土坑

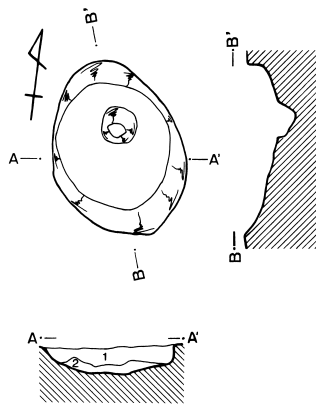


1. 暗褐色土でしまり強い。
2. 黄褐色ローム層。
3. 褐色、粘性が強い。
4. 茶褐色、3同様粘性強い。



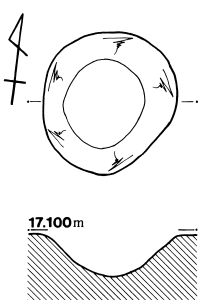
0 2m

18号土坑

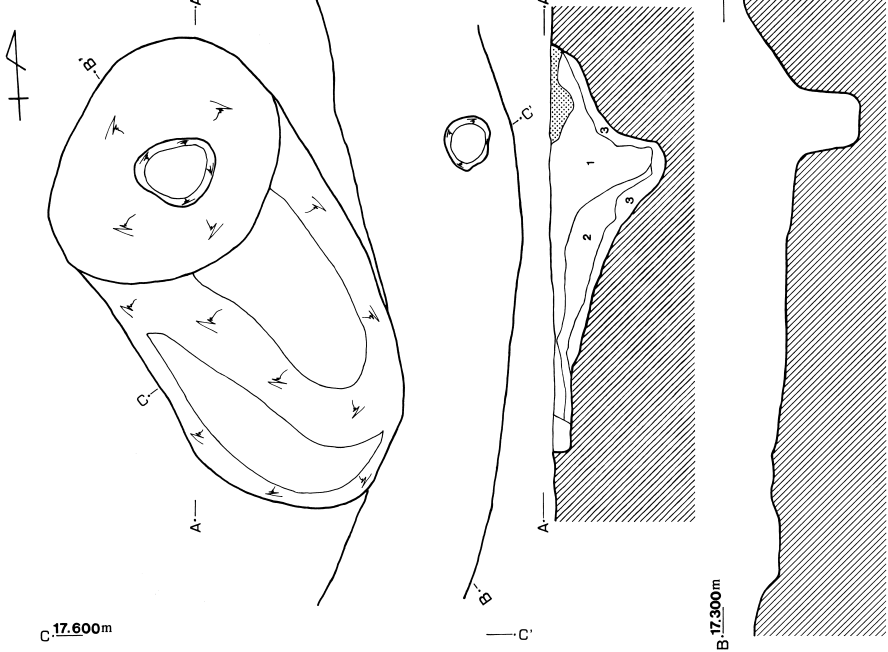


1. 黒褐色土 かくらん土。
2. しまりの強い褐色土。

19号土坑

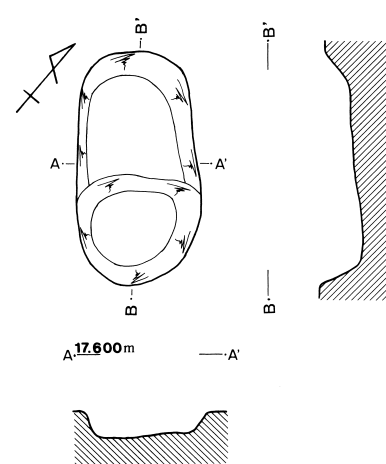


20号土坑

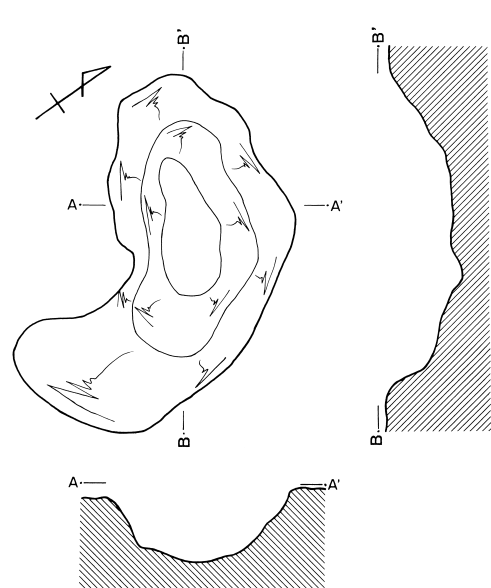


1. たいへんしまりの強い暗褐色土。
2. 炭化物を多く含む暗褐色土。
3. 側壁からの流れ込み。

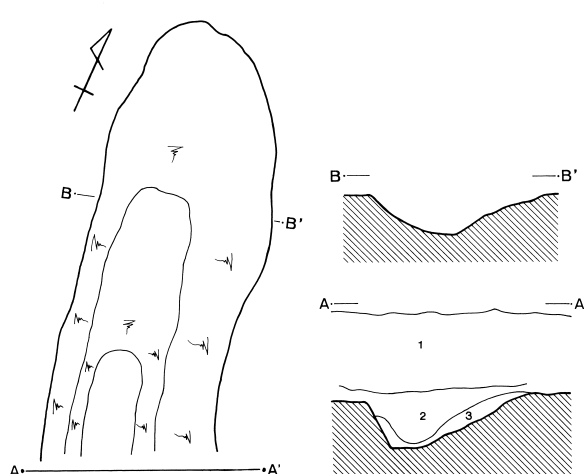
21号土坑



22号土坑



23号土坑



1. 褐色土。
 2. 暗褐色土。
 3. ロームを含む（流れ込み）黄褐色と褐色の混土層。
- 共にしまりのある

0 2m

第59図 本村遺跡 縄文時代の土坑4 (1 / 60)

るおとし穴である。分布は4～6号と14号土坑の4基が遺跡南西部の微高地上から、他の4基は南東部の低地部から確認された。A型土坑同様に密集性は低く、単独で構築されたような状況を呈しているが、10、11号土坑間は3mと近接し、覆土や形態も共通性を持っている。覆土からの遺物は5号土坑から縄文時代中期土器片1点のみが出土している。時期的な問題には何ら言及できない。縄文時代に帰属する他遺構との切り合い関係もない。

4号土坑（第56図）

遺跡の南西端部で確認された。平面形態は隅丸楕円形を呈し、坑底は礫層に達していた。覆土は締まり強く、粘性も有る。遺物の出土はない。

5号土坑（第56図）

遺跡の南西微高地上で確認された。平面形態は長楕円形を呈し、坑底までの深さは105cmを測る。覆土はロームブロックを多く含む。覆土中から縄文土器の波頭部1点が出土している。波頂部には工具を縦に押し当て、波頂側面にはさらに細い工具で連続刺突している。器面の文様は半截竹管による角押文を楕円の内外に沿わせている。貉沢式期のものか。

6号土坑（第57図）

遺跡の南西部微高地で確認された。平面形態は長楕円形を呈し、坑底は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は締まり強く、遺物の出土はない。

10号土坑（第57図）

東側の一部が区域外にかかっているが、平面形態は長い楕円形を呈する。壁は垂直に立上り、南北断面はY字状をなす。覆土は締まり強い褐色土が主体。

11号土坑（第58図）

10号土坑の3m北に位置し、東側立上りの一部が区域外にかかっているが、平面形態は長い楕円形を呈する。壁は垂直に立上り、南北断面はY字状をなす。覆土は締まり強い褐色土が主体。形態・覆土共に10号土坑に共通する。

14号土坑（第58図）50－BB区に位置する。

第24地点の中世遺構群が密集する部分から確認された。平面形態は細長い楕円形を呈する。壁は角度をもって立上る。東西断面をみると坑底の東側が下がっている。覆土は締まり強い暗褐色土が主体。

15号土坑（第58図）21－Y区に位置する。

平面形態はやや長い楕円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はV字状をなす。覆土のベースはロームだが、最下層は黒褐色土である。遺物出土はない。

C型土坑（18～31号土坑）

本型式に属する土坑は14基を数えるが、浅く不整形を呈すること以外に大きな共通性はない。土坑間の切り合い関係はない。覆土中からの出土遺物はなかった。

18号土坑（第59図）

平面形態は円形に近い形状を呈し、断面は皿状に立ち上がり、壁は緩傾斜で掘り込まれる。坑底は起伏をもち、中央部北寄りに径30cm、深さ15cmのピット状の落ち込みが1ヶ所認められた。覆土のあり方などから判断して縄文時代に位置づけられる可能性が考えられるが、正確な時期は不明である。

19号土坑（第59図）

平面形態は円形を呈し、断面は鍋底状を呈し丸みのある坑底へと続く。

20号土坑（第59図）

南東部を中世の溝に切られる。平面形は不整楕円形で、断面は皿状を呈し、坑底は起伏をもち、北側の円形部でピット状に深く凹む。覆土は締まり強い暗褐色土が主体。

21号土坑（第59図）

平面は隅丸長方形で、断面は鍋底状を呈する。壁は全体として緩傾斜で掘り込まれている。坑底はゆるやかな起伏をもち東側はやや深い。

22号土坑（第59図）

平面形態は不整形を呈し、坑底は起伏をもち壁は傾斜をもって立ち上がる。覆土は中位でローム層も入り込む。風倒木痕のようでもある。

23号土坑（第59図）

南側は調査区域外にかかる。平面形は長楕円形を呈するものと思われる。断面は角をもつ鍋底状を呈する。壁は西側は比較的急傾斜で掘り込まれているが、東壁は緩やかである。

24号土坑（第60図）

平面は円形で、坑底は平坦である。断面は鍋底状を呈し、南東部壁はやや傾斜が緩いが、他はほぼ垂直に立ち上がっている。

25号土坑（第60図）

平面形態は円形に近い形状を示し、坑底は北寄りで起伏をもち南に傾斜する。断面は鍋底状を呈する。北壁はややオーバーハングする。他はほぼ垂直である。

26号土坑（第60図）

平面は長隅丸方形を呈する。断面は皿状を呈し、坑底は平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。中世のピットに南壁の一部を切られる。

27号土坑（第60図）

平面は楕円形で、断面は鍋底状を呈する。坑底はやや起伏があり、壁は比較的急に立ち上がっている。覆土は全体として締まりの強い暗褐色土が主体。

28号土坑（第60図）

西側は調査区域外にかかるが、ほぼ楕円形を呈すると想定される。坑底はやや起伏があるがほぼ平坦といえる。壁は北側が最も急に立ち上がる。覆土は縄文時代特有の暗褐色土が主体。

29号土坑（第60図）

平面は円形で、断面は擂鉢状を呈する。坑底は狭い。壁は緩やかに立ち上がる。

30号土坑（第60図）

平面は楕円形で、断面は鍋底状を呈する。壁は急傾斜に立上り、おとし穴的土坑とも捉えられる土坑である。覆土は複雑に入り込む。

31号土坑（第60図）

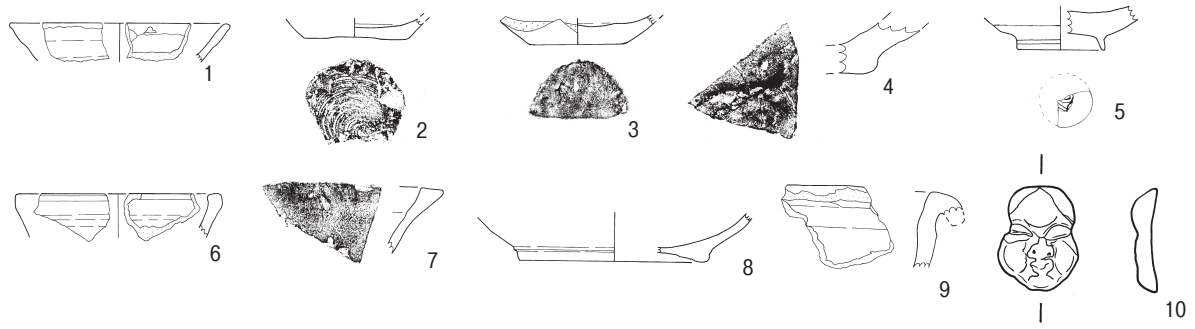
平面は不整な楕円形で、坑底は起伏があり断面は非対称形をなす。

（坪田幹男）

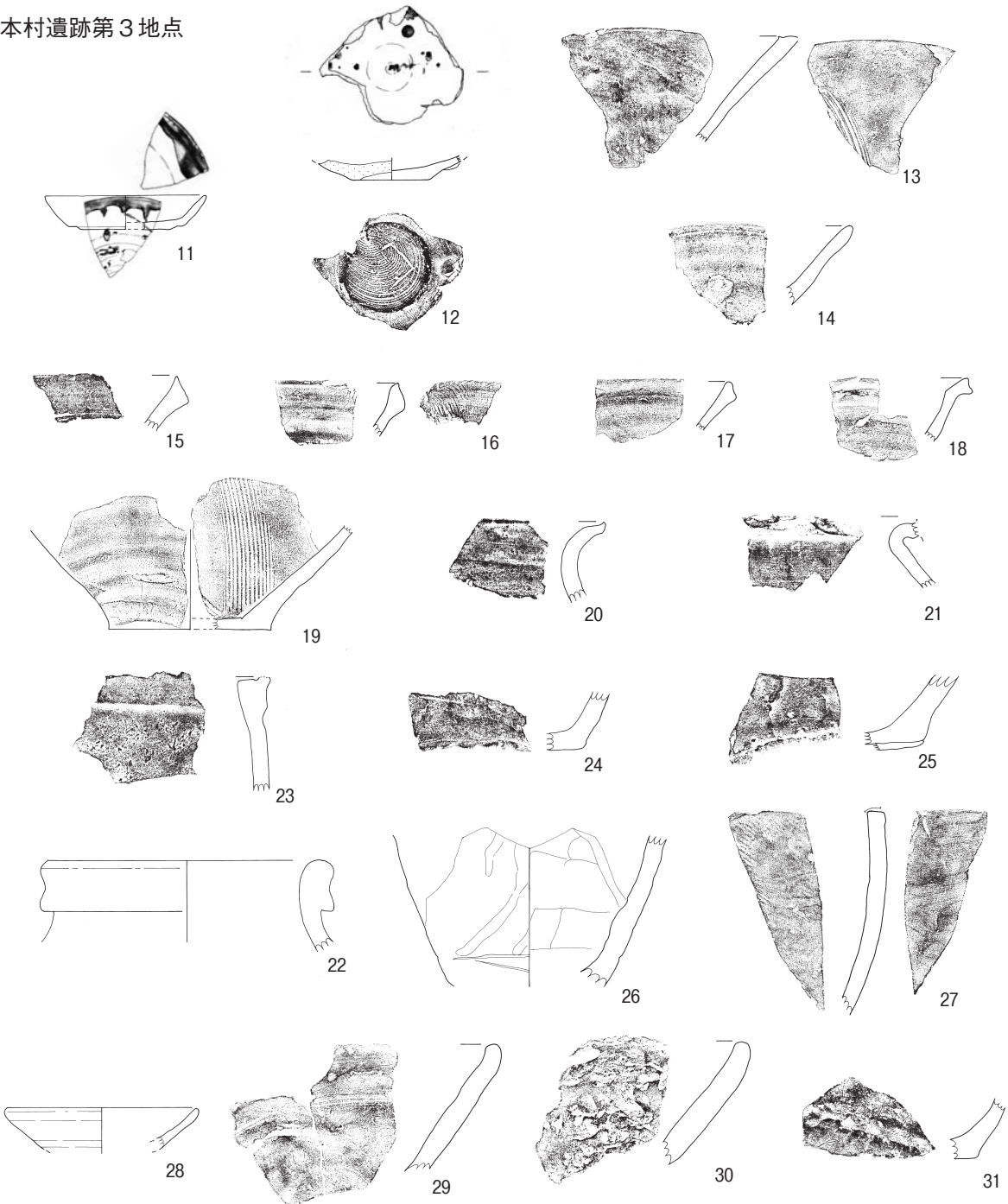
第11表 本村遺跡の縄文時代土坑一覧

No.	旧No.	形態	確認面	底面			下部施設の有無
			長径×短径	長径×短径	深さ	主軸方位	
(おとし穴)							
1号	2地点2号	楕円	160×95	125×60	65	N60W	小ピット3
2号	2地点4号	長楕円	255×80	235×35	55	N73E	小ピット7
3号	2地点5号	長楕円	340×76	320×40	90	N25W	小ピット4
4号	3地点E区	長楕円	0×76	20×40	90	N25W	
5号	4地点1号	楕円	180×90	160×60	105	N28E	
6号	6地点1号	長楕円	225×90	200×25	90	N67W	
7号	6地点2号	長楕円	245×75	230×23	150	N61W	
8号	6地点3号	長楕円	285×95	260×20	65	N48W	小ピット1
9号	8地点1号	長楕円	284×104	270×50	110	N69W	
10号	15地点23号	長楕円	×110	×45	110	N78E	
11号	15地点24号	長楕円	(320)×75	250×25	100	N79W	
12号	15地点32号	長楕円	(250)×65	200×35	90	N57W	
13号	17地点2号	長楕円	280×55	245×15	55	N84E	
14号	24地点13号	長楕円	280×55	250×25	65	N75W	
15号	28地点1号	長楕円	190×70	160×15	105	N70W	
16号	28地点28号	楕円	180×145	150×85	70	N36W	小ピット3
17号	31地点7号	長楕円	165×65	150×40	85	N69W	小ピット2
(土坑)							
18号	2地点D区3号	円	143×100	103×87	20	N28W	
19号	3地点35号	円	110×105	70×60	30	N24E	
20号	3地点37号	不整楕円	385×195	×	90	N26W	
21号	3地点42号	隅丸楕円	180×95	145×75	32	N38W	
22号	3地点D2号	不整	285×105	180×80	58	N53W	
23号	3地点D3号	長楕円	-×130	-×60	40	N8W	
24号	3地点E1号	円	145×125	110×100	48	N72W	
25号	3地点E2号	円	105×78	90×73	50	N12W	
26号	6地点4号	隅丸楕円	350×115	305×75	33	N82W	
27号	14地点B32号	楕円	137×55	118×34	28	N72W	
28号	14地点B33号	楕円	-×95	-×55	40	N87E	
29号	15地点D号	円	115×112	65×60	30	N-S	
30号	15地点E21号	楕円	160×116	100×60	72	N66E	
31号	15地点E31号	楕円	120×52	100×35	32	N8 E	

本村遺跡第2地点



本村遺跡第3地点



0 1 2 3 4 5cm 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm
(10) (1~9・11~31)

第182図 本村遺跡 2・3地点遺構外出土遺物 (1 / 2・1 / 4)

第18表 本村遺跡 出土遺物観察表

遺構	図版 No	種別・器種	口径・ 長 (cm)	底径・ 幅 (cm)	器高・ 厚 (cm)	技法 / 文様 / その他	推定生産地	推定年代	残存	備考
本村遺跡地下式墳										
1号地下式墳	159 図1	焼締陶器・片口鉢				紐積み成形、体部下半縦に篋撫で。	常滑		10号土坑として取りあける	
3号地下式墳	2	土器・カワラケ	11.0	5.7		ロクロ成形、回転糸切り（右）／見込み中央凹む。胎土粉質／外側に煤・タール付着。	在地	16世紀前半	1/2以上残存	
	3	銭貨	(第19表参照)							
	4	銭貨								
4号地下式墳	5	陶器・皿		5.0	〈1.5〉	ロクロ成形、回転糸切り（右）／灰釉	瀬戸・美濃	15世紀末～16世紀初	底部破片。内面の釉薬に陶器片付着	大窯1 1480～1530
	6	陶器・播鉢				紐積ロクロ成形／錆釉	瀬戸・美濃	15世紀末～16世紀初	口縁部破片	
	7	陶器・播鉢	(28.2)		〈4.0〉	紐積ロクロ成形／錆釉、櫛目9本以上	瀬戸・美濃	16世紀末～17世紀初	口縁部破片	大窯4後 1590～1610
	8	土器・内耳鍋				紐作り成形、外面口縁部横撫で、／砂粒多量含む。海面骨針含む。	在地	16世紀	口縁部破片	河越館跡、深谷新田ウラ等
	9	土器・カワラケ	11.7	6.2	3.0	ロクロ成形、静止糸切り／胎土粉質／内外面に泥付着。	在地	16世紀後半		水引、10と均質
	10	土器・カワラケ	11.7	6.4	2.7	ロクロ成形、静止糸切り／胎土粉質／内外面一部に煤・タール付着。	在地	16世紀後半	1/2以上残存	水引、9と均質
	11	銭貨	(第19表参照)							
	12	陶器・花瓶	2.8		〈6.0〉	ロクロ成形／灰釉			1/2以下残存	
6号地下式墳	13	銭貨	(第19表参照)							
	14	銭貨								
8号地下式墳	15	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑	14世紀前半	口縁部破片。	7型式
12号地下式墳	16	土器・カワラケ		6.4	〈1.5〉	ロクロ成形、回転糸切り（右）／見込み中央凹む。／外側に泥付着。	在地	16世紀前半	底部破片	
	17	石製品・粉挽臼・下臼			〈11.0〉	分画不明。芯棒孔有り。えぐり深さ2.0cm。	砂岩（緻密）		1/2以下残存	
13号地下式墳	18	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑		胴部破片。	
	19	土器・カワラケ	(10.8)	(5.5)	2.8	ロクロ成形、回転糸切り（右）／胎土粉質。橙色粒含む。	在地	16世紀後半	1/4以下残存	
15号地下式墳	160 図20	磁器・碗		4.8	〈1.5〉	ロクロ成形、回転削り出し高台（右）／青磁			底部破片	
16号地下式墳	21	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑	13世紀中葉	口縁部破片。	6a型式N字口縁
17号地下式墳	22	焼締陶器・壺	(13.5)		〈3.2〉	紐積み成形	常滑	14世紀前半	口縁部破片。	7型式
	23	石製品・茶臼・下臼			6.6	8分画、溝間隔0.7cm。受皿欠。えぐり0.7cm。	安山岩		1 / 4 残 存	
18号地下式墳	24	陶器・播鉢		9.0	〈8.5〉	ロクロ成形、回転糸切り（右）／錆釉、櫛目8本	瀬戸・美濃		1/2以下残存	
	25	石製品・板碑	(9.4)	(7.6)	1.8		緑泥片岩			
26号地下式墳	26	陶器・瓶・梅瓶				ロクロ成形、／肩部三重沈線、灰釉	瀬戸・美濃	14世紀～15世紀	肩部破片。	古瀬戸後期
	27	焼締陶器・片口鉢		(12.8)	〈4.5〉	紐積み成形、下半指頭圧痕、底裏砂底／内面磨耗	常滑	15世紀～16世紀	底部破片。	
	28	土器・カワラケ				ロクロ成形、／胎土粉質。橙色粒含む。	在地		口縁部破片。	
27号地下式墳	29	石製品・粉挽臼・上臼		(27.2)	9.2	6分画、溝間隔3.7cm。受皿深2.3cm、上縁幅3.0cm、断面方形。供給口有り。	砂岩		1/4残存	
28号地下式墳	30	土器・カワラケ・灯明皿	6.9	5.0	2.6	ロクロ成形、回転糸切り（右）後一部篋削り／内外面煤付着	在地			
	31	土器・鉢				紐積み成形、口縁横撫で。口唇部は内外面に丸く端部を撫で付け玉縁状になる。／砂粒（長石粒多い）多量含む。内面磨耗	在地		口縁部破片	梶樹原D類
	32	石製品・砥石	(6.8)	2.7	2.2	表裏側4面砥面。中央括れる。	凝灰岩		1/2以上残存	
	33	鉄・不明	(7.3)	0.7	0.7					鉄鏝？
30号地下式墳	34	土器・鉢	(35.8)		〈8.4〉	紐積み成形、口縁横撫で。口唇部は内外面に丸く端部を撫で付け玉縁状になる。体部外面指撫で／砂粒（長石粒多い）多量含む。内面磨耗。外表面剥離。	在地	15世紀後半	口縁部破片	梶樹原D類
31号地下式墳	35	土器・鉢		(11.8)	〈8.8〉	紐積み成形、体部外面指撫で／砂粒（長石粒・片岩粒）多量含む。内面底部磨耗。	在地	15世紀	底部破片	
本村遺跡 井戸										
井戸2	161 図1	陶器・播鉢				紐積ロクロ成形／錆釉、	瀬戸・美濃	15世紀前半	口縁部破片	
	2	石製品・砥石	(11.3)	5.2	3.7	2面砥面	凝灰岩		上下裏面破損	
	3	石製品・粉挽臼・上臼		29.2	11.8	分画は不明、溝間隔2.3cm。中央は磨耗し、周縁部の目立はやや放射状になる。受皿深2.6cm、上縁幅3.5cm、断面方形。供給口は円形、径3.0cm。芯棒受はドーム形、径3.3cm。挽手穴は方形だが欠ける、奥行4.0cm。挽手穴、芯棒受、供給口は一直線に並ぶ。ふくみ厚3.0cm。	砂岩（緻密）		1/2残存鉄鏝、煤付着	
井戸3	4	土器・カワラケ		(6.0)	〈1.3〉	ロクロ成形、回転糸切	在地	中世	底部破片	
	5	石製品・粉挽臼・下臼		30.2	15.3	6分画5本溝、溝間隔2.3cm。芯棒孔は上下から穿つ、径3.9cm。ふくみ厚1.3cm。えぐりの深さ2.5cm。	砂岩		1/2残存鉄鏝、煤付着	
井戸4	6	土器・カワラケ		(6.7)	〈2.0〉	ロクロ成形、回転糸切	在地	中世	底部破片	
	7	焼締陶器・甕					常滑	中世	胴部破片	
	8	土器・焙烙				紐作り成形、口縁部横撫で／赤色粒子、白色粘土がマール状に混入。	在地		口縁部破片	
	9	石製品・砥石	(8.9)	2.9	2.3	表を上下方向に2面と裏面を砥面	凝灰岩			
	10	石製品・砥石	(12.8)	4.5	4.5	表裏側4面砥面	凝灰岩			
	11	石製品・粉挽臼・上臼		(28.0)	(8.8)	溝は放射状、溝間隔1.5～2.3cm。上縁欠損。供給口は円形、径3.8cm。ふくみ厚2.7cm。	砂岩（小礫多量含む）		1/2以下残存錯、煤付着	
	12	石製品・粉挽臼・下臼		(28.0)	(9.6)	上面欠損。芯棒孔有り。えぐりの深さ2.56cm。	砂岩（小礫多量含む）		1/2残存鉄鏝、煤付着	
井戸5	13	石製品・板碑	(11.6)	(9.4)	2.0	両側縁打ち割り、裏面平ノミ痕	緑泥片岩			
	162 図14	陶器・播鉢				紐積ロクロ成形／錆釉	瀬戸・美濃	16世紀～17世紀初頭	口縁部破片	
	15	石製品・粉挽臼・上臼		(32.8)	11.8	溝は放射状、溝間隔1.5～2.7cm。受皿深2.7cm、上縁幅3.5cm、断面円形。ふくみ厚6.5cm。	砂岩（小礫多量含む）		1/4以下残存	
	16	石製品・板碑	(27.0)	(20.8)	3.6	両側縁打ち割り後一部磨く／杵線有り、銘文は判読不明	緑泥片岩（黄鉄鉱多い）		下部破片	
	17	石製品・板碑	(18.4)	(18.6)	2.7	両側縁打ち割り後一部磨く	緑泥片岩		下部破片	

遺構	図版 No.	種別・器種	口径・ 長 (cm)	底径・ 幅 (cm)	器高・ 厚 (cm)	技法／文様／その他	推定生産地	推定年代	残存	備考
本村遺跡遺構外										
本村 2	182 図 1	陶器・皿・緑釉皿	(11.2)		〈2.0〉	ロクロ成形／灰釉	瀬戸・美濃	15世紀中葉～ 16世紀前葉	口縁部破片	古瀬戸後期～大 窯Ⅰ 1440～ 1530
	2	土器・カワラケ		5.2	〈1.0〉	ロクロ成形、回転糸切り（右）／赤色粒少量、白色粒 子多量。	在地		底部破片	
	3	土器・カワラケ		4.9	〈1.3〉	ロクロ成形／見込み外周及び中央やや凹む。赤色粒少 量、胎土粉質	在地		底部破片	
	4	土器・鉢か壺				紐積み成形、下半指頭圧痕／白色砂粒多量	在地		底部破片	
	5	磁器・碗・丸碗		(4.5)	〈2.2〉	ロクロ成形／染付。底裏銘渦福	肥前	1750～1810年 代	底部破片	波佐見Ⅴ-2、3
	6	陶器・香炉	(10.4)		〈2.2〉	ロクロ成形／鉄釉	瀬戸・美濃	18世紀	口縁部破片	
	7	土器・植木鉢				ロクロ成形	在地		口縁部破片	
	8	陶器・鉢		(9.5)	〈2.0〉	ロクロ成形／灰釉		近代	底部破片	
	9	陶器・半胴				ロクロ成形／鉄釉	瀬戸・美濃	1800～1850年 代	口縁部破片	瀬戸紀要Ⅵ 1987 勇衛文窯、本業 焼 9.10 期
	10	土製品・芥子面・お 多福	2.7	2.0	0.6	型抜き	在地	19世紀後半	完形	
本村 3	11	陶器・皿・緑釉皿	(9.8)	(5.4)	2.0	ロクロ成形、回転糸切り／鉄釉	瀬戸・美濃	1460～1480年 代	底部破片	古瀬戸後期Ⅳ新 1460～1480
	12	陶器・皿・緑釉皿		4.6		ロクロ成形、回転糸切り（右）／灰釉	瀬戸・美濃	15世紀中葉～ 16世紀前葉	底部破片	古瀬戸後期～大 窯Ⅰ 1440～ 1530
	13	土器・搥鉢				紐積ロクロ成形、口縁部横撫で、体部指頭圧痕／細砂 粒（角閃石、白色粒等）多量。	在地	15世紀後半	口縁部破片	中世窯業の諸相 、関東 東総
	14	焼締陶器・片口鉢				紐積み成形、口縁横撫で	常滑	13世紀	口縁部破片	5 型式？
	15	焼締陶器・片口鉢				紐積み成形、口縁横撫で			口縁部破片	
	16	陶器・搥鉢				紐積ロクロ成形／錆釉	瀬戸・美濃	1530～1560	口縁部破片	大窯 2 前 1530 ～ 1560
	17	陶器・搥鉢				紐積ロクロ成形／錆釉	瀬戸・美濃	1480～1530	口縁部破片	大窯 1 前 1530 ～ 1560
	18	陶器・搥鉢				紐積ロクロ成形／錆釉	瀬戸・美濃		口縁部破片	
	19	陶器・搥鉢		(9.9)	〈6.0〉	紐積ロクロ成形／錆釉、櫛目 13 本	瀬戸・美濃		底部破片	
	20	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑	1190～1220	口縁部破片	4 期
	21	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑	1250～1300	口縁部破片	6 期
	22	焼締陶器・甕	(16.5)		〈5.0〉	紐積み成形	常滑	1400～1450	口縁部破片	9 期
	23	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑	1500～1550	口縁部破片	11 期
	24	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑		底部破片	
	25	焼締陶器・甕				紐積み成形	常滑		底部破片	
	26	焼締陶器・壺				紐積み成形	常滑		体部破片	
	27	焼締陶器・甕・転用 甕				紐積み成形／表裏 3 側面を砥面とする。	常滑		体部破片	
	28	土器・カワラケ	(11.5)		〈2.8〉	ロクロ成形／赤色粒多量、胎土粉質	在地		口縁部破片	
	29	土器・鉢				紐積み成形、口縁横撫で、下半指頭圧痕／白色小礫多 量	在地	14世紀後～15 世紀前	口縁部破片。	灰色
	30	土器・鉢				紐積み成形、口縁横撫で、下半指頭圧痕／白色小礫多 量	在地	14世紀後～15 世紀前	口縁部破片。	橙色
	31	土器・鉢				紐積み成形／白色小礫多量	在地		底部破片。	浅黄色
	183 図 32	陶器・皿・反皿	(12.5)	(7.7)	3.0	ロクロ成形、削り出し高台／灰釉、底部にトチン跡	瀬戸・美濃	17世紀中葉	1/2以下残存	本業焼き 2 穴 田第 2 窯紀要Ⅵ
	33	陶器・皿・丸皿	(13.4)	(8.0)	3.1	ロクロ成形、付け高台／灰釉	瀬戸・美濃	17世紀後半～ 18世紀前半	底部破片。	
	34	陶器・皿・菊皿		(7.2)	〈2.0〉	ロクロ成形、付け高台／灰釉	瀬戸・美濃	18世紀前半	底 部 破 片。被 熱。	かみた窯採集品 紀要Ⅵ P94 No 1 78 かみた 3 期
	35	泥面子	2.8	2.0	1.3					
	36	石製品・砥石	〈7.0〉	2.2	1.1	表面砥面。裏、2 側面に歯歯タガネ痕	凝灰岩			
	37	石製品・砥石	〈7.7〉	4.7	3.2	表 2 側面砥面。	凝灰岩			緑色
	38	石製品・砥石	〈11.0〉	4.8	3.5	表 1 側面砥面。	凝灰岩			
	39	石垂	4.5	4.7	0.3					
	40	石製品・粉挽臼・上 臼		(29.0)	8.1	6 分画 8 本溝、溝間隔 1.4～2.0 cm、古い溝が残った状 態で目立てされる。上縁欠。ふくみ厚 3.5 cm。	砂岩（緻密）		1/2以下残存 被熱、煤付着	
	41	石製品・粉挽臼・上 臼			〈8.2〉	分画不明、溝間隔 1.7～2.3 cm、目立ては粗く、やや放 射状になる。受皿深 1.5 cm、上縁幅 2.5 cm、断面丸い。 供給口有り。	砂岩		1/4以下残存 被熱	
	42	石製品・粉挽臼・上 臼			〈11.0〉	分画不明、溝間隔 1.5～3.5 cm、放射状。上縁欠。	砂岩		1/4以下残存	
	43	石製品・粉挽臼・上 臼			10.6	8 分画？、溝間隔 1.0～1.3 cm。上縁欠。モノクバリ溝 幅 3.5 cm。	砂岩（小礫多 量含む）		1/4以下残存	
	44	石製品・粉挽臼・上 臼		(33.4)	〈9.8〉	分画不明、溝間隔 2.0 cm、放射状。受皿深 2.5 cm。供給 口径 3.2 cm。	砂岩（緻密）		1/4以下残 被熱、煤付着	
	45	石製品・粉挽臼・上 臼			7.8	磨耗し溝は無し。芯棒受はドーム形、径 2.7 cm。	閃緑花崗岩		1/4以下残存	
	46	石製品・板碑	〈15.0〉	〈12.2〉	2.3	側縁打ち割り後磨き、裏面平ノミ痕／種子「阿弥陀三尊」 主尊種子「キリク（阿弥陀）蓮座」、左脇侍種子「サ ク（勢至）」下部に銘文有り	緑泥片岩		破片	
	47	石製品・板碑	〈7.0〉	〈7.4〉	2.2	蓮座	緑泥片岩		破片	
	48	石製品・板碑	〈4.6〉	〈8.2〉	1.8	側縁打ち割り／真言「オン」	緑泥片岩		破片	
本村 4	49	磁器・碗・丸碗		(7.6)	〈3.0〉	ロクロ成形／染付け	肥前	1700～1780年 代	底部破片	
	50	陶器・皿・反皿	(12.2)	(8.6)	3.1	ロクロ成形／灰釉	瀬戸・美濃	17世紀中葉	底部破片	本業焼き 2 穴 田第 2 窯紀要Ⅵ
	51	鉄製品・釘			〈2.7〉	切釘				
	52	鉄製品・釘			〈2.0〉	角釘			端部欠	
本村 5	184 図 53	陶器・皿・鉄絵皿		7.5	〈1.3〉	表裏側 4 面砥面。磨削状に端部が磨り減る。	瀬戸・美濃	17世紀後半	底部破片	本業焼き 3.4
	54	陶器・皿・鉄絵皿		6.1	〈1.3〉	ロクロ成形、削り出し高台／長石釉、鉄絵、底部にト チン跡	瀬戸・美濃	17世紀後半	底部破片	本業焼き 3.4



第2地点 調査区全景（西より）



第3地点 E区調査前風景



第6地点 プラン確認状況



第7地点 調査風景（西より）



第14地点 プラン確認状況（南より）



第14地点 調査区全景（西より）



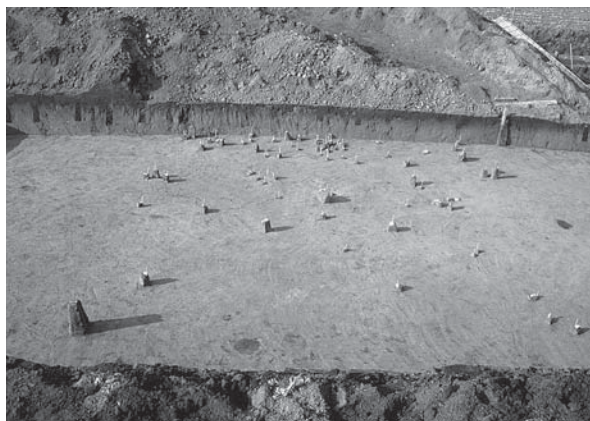
第14地点 B区調査区全景（北より）



第14地点 B区調査区遠景



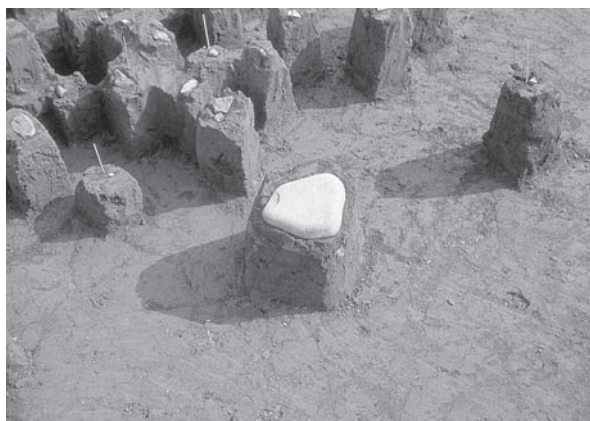
第2地点 旧石器出土状況



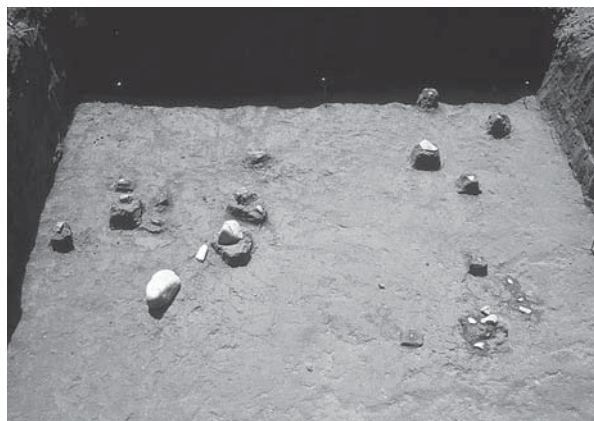
第2地点 旧石器出土状況（石器群2・2号礫群）（北より）



第6地点 5号礫群



第6地点 石器群4出土状況



第6地点 石器群4出土状況



第19地点 6号礫群出土状況（西より）



第19地点 6号礫群



第24地点 7号礫群



第2地点 縄文1号集石 (西より)



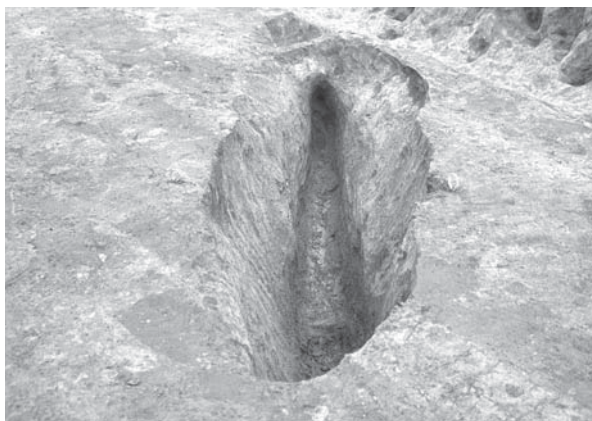
第2地点 縄文1号土坑



第2地点 縄文2号土坑 (西より)



第2地点 縄文5号土坑



第6地点 縄文7号土坑



第6地点 縄文6号土坑 (南より)



第15地点 縄文10号おとし穴 (東より)



第15地点 縄文11号おとし穴 (東より)



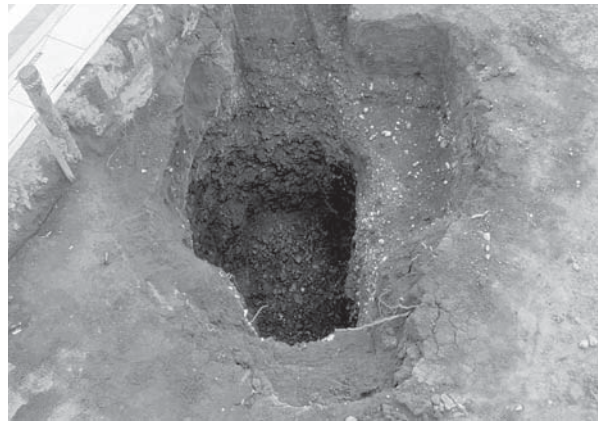
第 24 地点 97 号井戸



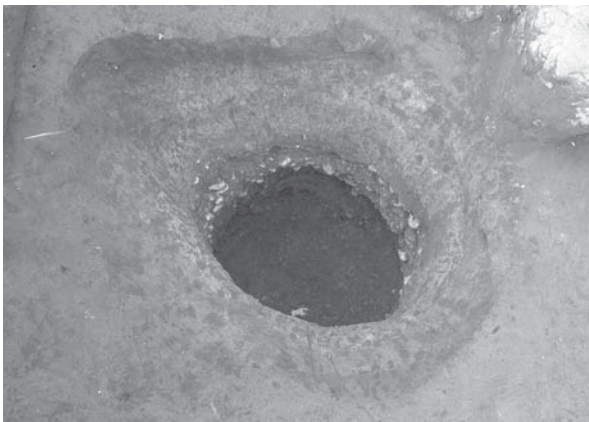
第 24 地点 98 号井戸



第 28 地点 103 号井戸石臼出土状態



第 28 地点 104 号井戸 (西より)



第 31 地点 105 号井戸 (南より)



第 31 地点 106 号井戸遺物
出土状態

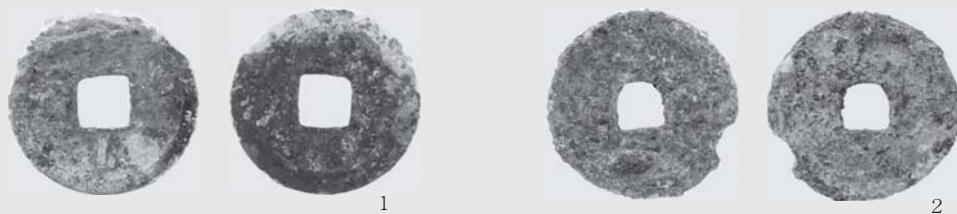


第 31 地点 106 号井戸全景 (東より)

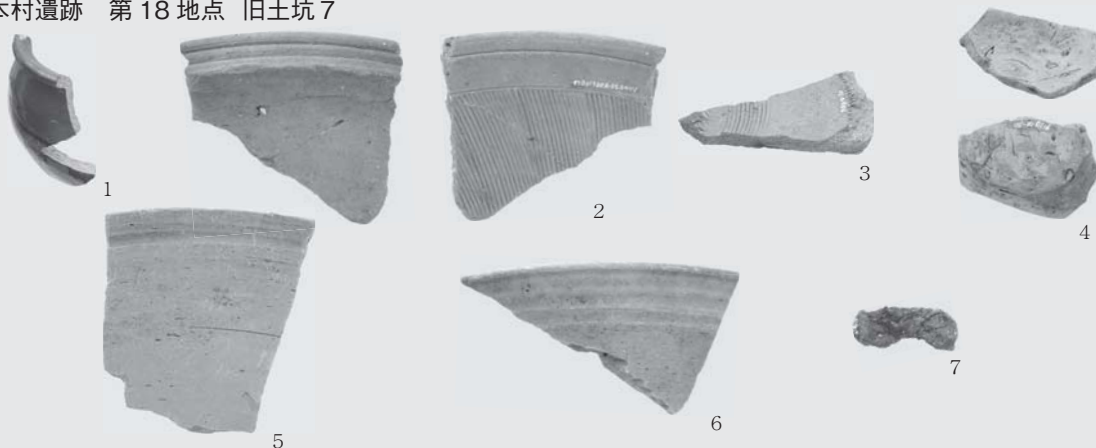


第 2 地点 土坑 1 (西より)

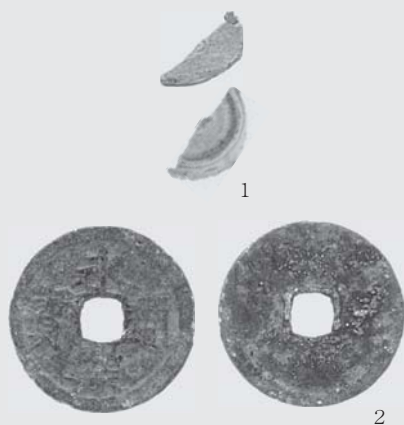
本村遺跡 第14地点 骨片・焼土範囲



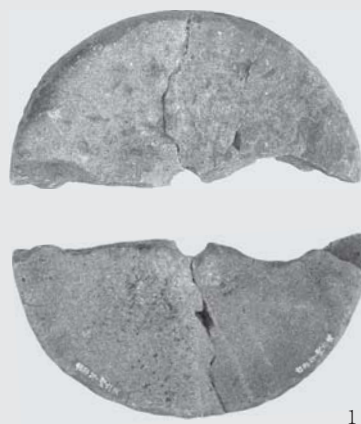
本村遺跡 第18地点 旧土坑7



本村遺跡 第28地点 焼土範囲



本村遺跡 第29地点 竪穴状遺構



第2地点



第3地点



本村遺跡出土遺物集計表

出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
本村2地点						
本村2ーA区	旧石器	18				
	常滑	1	鉢	1		
	土器	19	壺	1		
			カワラケ	13		
			焙烙	5		
	近世陶器	2	瀬戸・美濃	2		
	縄文土器	10				
合 計	50					
本村2ーB区	瀬戸・美濃	1	天目	1		
	近世陶器	1	瀬戸・美濃	1		
	土器	14	カワラケ	10		
			焙烙	3		
			不明	1		
	金属遺物	1	鉄滓	1		
	縄文土器	7				
合 計	24					
本村2ーC区	土器	6	鉢	1		
			カワラケ	4		
			焙烙	1		
	瓦	1				
	縄文土器	2				
合 計	9					
本村2ーD区	旧石器	3				
	縄文土器	1				
	合 計	4				
本村2ーE区	近世磁器	1	肥前・磁器	1		
	合 計	1				
本村2ーF区	常滑	1	甕	1		
	土器	11	カワラケ	7		
			不明	3		
			植木鉢	1		
	近世陶器	3	瀬戸・美濃	鉢	1	
				皿	1	
				不明	1	
縄文土器	5					
合 計	20					
本村2地点一括	石製品	2	板碑	2		
	常滑	2	甕	2		
	瀬戸・美濃	3	天目	1		
			皿	2		
	土器	20	カワラケ	10		
			焙烙	4		
			土師器	5		
			鉢	1		
			近世陶磁器	35	肥前・陶器	皿
	碗	5				
	肥前・磁器	皿			1	
		その他			1	
	瀬戸・美濃	皿		6		
		碗		2		
	信楽	1		灯明皿	1	
	その他	18				
	土製品	3	泥面子	1		
			その他	2		
	金属遺物	1	簪	1		
	石器	2				
	縄文土器	6				
	合 計	74				
	本村3地点					
地下式竈1	常滑	1	鉢	1		
	合 計	1				
井戸2	瀬戸・美濃	1	播鉢	1		
	石製品	2	砥石	1		
			石臼	1		
	土器	2	カワラケ	2		
	合 計	5				
井戸3	石製品	1	石臼	1		
	金属遺物	1	刃子	1		
	合 計	2				
井戸4	常滑	1	甕	1		
	瀬戸・美濃	1	皿	1		
	土器	3	カワラケ	2		
			焙烙	1		
	石製品	6	板碑	3		
			石臼	2		

出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
			砥石	1		
	合 計	11				
井戸5	瀬戸・美濃	1	播鉢	1		
	石製品	4	板碑	3		
			石臼	1		
	合 計	5				
井戸6	常滑	3	甕	3		
	合 計	3				
井戸7	常滑	6	鉢	6		
	土器	5	鉢	5		
	石製品	1	砥石	1		
	合 計	12				
井戸8	金属遺物	2	釘	2		
	合 計	2				
井戸10	土器	1	カワラケ	1		
	石製品	2	砥石	1		
			板碑	1		
	合 計	3				
井戸13	石製品	1	板碑	1		
	合 計	1				
井戸14	石製品	1	板碑	1		
	合 計	1				
井戸15	常滑	1	甕	1		
	石器	1				
	合 計	2				
井戸17	常滑	1	甕	1		
	合 計	1				
井戸18	瀬戸・美濃	1	碗	1		
	合 計	1				
井戸19	常滑	1	鉢	1		
	合 計	1				
井戸20	石製品	4	板碑	4		
	合 計	4				
土坑8	近世陶器	1	瀬戸・美濃	1	皿	1
	合 計	1				
土坑33	常滑	22	甕	15		
			鉢	7		
	瀬戸・美濃	3	皿	1		
			播鉢	2		
	備前	1	鉢	1		
	土器	9	鍋	1		
			鉢	6		
			壺・甕	2		
	石製品	18	石臼	6		
			板碑	10		
			砥石	2		
	近世磁器	1	肥前	1		
	石器	1				
	合 計	55				
土坑38	瀬戸・美濃	1	播鉢	1		
	合 計	1				
土坑57	瀬戸・美濃	1	播鉢	1		
	合 計	1				
土坑65	常滑	1	甕	1		
	合 計	1				
土坑77	常滑	1	鉢	1		
	金属遺物	2	釘	2		
	合 計	3				
土坑84	土器	1	カワラケ	1		
	合 計	1				
土坑89	土器	1	須恵器	1	壺	1
	合 計	1				
土坑100	金属遺物	1	鉄砲弾	1		
	合 計	1				
土坑101	瀬戸・美濃	1	壺	1		
	合 計	1				
土坑114	貿易陶磁器	1	青磁	1		
	合 計	1				
土坑120	土器	2	カワラケ	2		
	合 計	2				
土坑125	土器	1	カワラケ	1		
	石製品	1	砥石	1		
	合 計	2				
土坑126	土器	1	須恵器	1	蓋	1
	合 計	1				
溝32	石製品	1	板碑	1		